



三陸防災復興プロジェクト 2019

運営計画

2018 年 12 月

三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会

1	開催の趣旨	1
2	目指す姿とコンセプト	
	(1) 目指す姿	2
	(2) 基本コンセプト	2
	(3) 目指す姿を実現するための5つのテーマ	3
3	名称・会期・会場	
	(1) 名 称	4
	(2) 会 期	4
	(3) 会 場	4
4	主催者等	
	(1) 主 催	5
	(2) 共 催	5
	(3) 協賛・協力団体	5
5	事業計画	
	(1) 事業計画の基本的考え方	6
	(2) 事業類型の考え方	6
	(3) 事業名称の決定	7
	(4) 事業一覧	8
	(5) 5つのテーマに関する各事業の位置づけ	9
	(6) 実行委員会主催事業及び関連事業の開催日程	10
	(7) 各事業の概要	12
6	参加・協働・連携の推進	
	(1) 沿岸市町村の住民をはじめとする岩手県民の参加	60
	(2) 団体、企業との協働	61
	(3) NPO、コミュニティ団体、地域、学校等との連携	62
	(4) 市町村、国の関係機関、県との連携	62
7	広報計画	
	(1) 広報実施の考え方	64
	(2) 展開の方向性	64
	(3) 広報手段の種別ごとの広報・宣伝の実施	66
	(4) S N S の運用	70

8	交通輸送・宿泊及び警備安全に係る対応		
	(1) 交通輸送の対応について	．．．．．	72
	(2) 宿泊への対応について	．．．．．	76
	(3) 警備・安全対策の対応について	．．．．．	78
9	事業推進に係る主なスケジュール及び推進体制		
	(1) 主なスケジュール	．．．．．	80
	(2) 推進体制	．．．．．	81
10	概算費用		
	概算費用額	．．．．．	82
11	参考資料		
	(1) 三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会会則	．．．．．	84
	(2) 三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会構成員 名簿	．．．．．	87
	(3) 事業検討に係る組織体制	．．．．．	91
	(4) 三陸防災復興プロジェクト 2019 ロゴマーク	．．．．．	92

1 開催の趣旨

2011年3月11日の東日本大震災津波による被災以降、三陸地域では、安全なまちづくりや暮らしの再建、なりわいの再生に向けて、三陸沿岸道路等の交通ネットワークや市街地の整備、災害公営住宅の建設、医療・福祉施設や教育施設の復旧、漁船や養殖施設の復旧、大型商業施設の開業などの取組が着実に進められています。

一方、未だ応急仮設住宅等で多くの方々が不自由な生活を余儀なくされており、一日も早い恒久的な住宅への移行と、復興の長期化によるこころと体のケアや、災害公営住宅などでの新しい暮らしに伴う新たなコミュニティの形成に向け支援する必要があります。

被災地においては、復興の取組が進められている中、震災の風化や被災地への関心の低下が懸念されているほか、人口減少・少子高齢化が進展しており、交流人口の拡大にいかに取り組んでいくか等、復興の先を見据えた地域振興にも取り組んでいく必要があります。

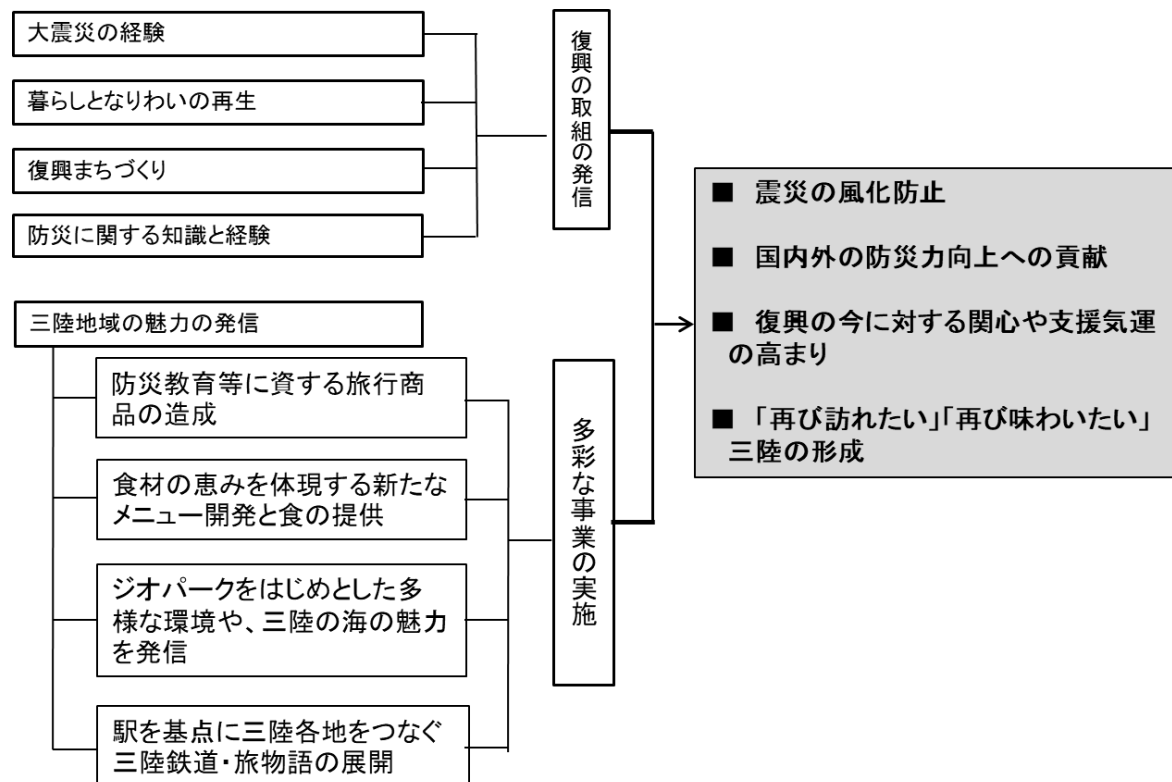
このような中、東日本大震災津波から9年目となる2019年は、三陸鉄道による久慈から盛間の一貫運行のほか、陸前高田市に整備が進められている東日本大震災津波伝承館の開館、ラグビーワールドカップ 2019™の釜石開催など、三陸地域が日本国内のみならず世界的に注目を集める年となります。

この機会を捉えて、復興に力強く取り組んでいる地域の姿を発信し、東日本大震災津波の風化を防ぐとともに、国内外からの復興への支援に対する感謝を示し、さらには、東日本大震災津波の記憶と教訓を伝えることにより日本国内はもとより世界の防災力向上にも貢献していくこと、また、併せて、豊かで多彩な自然環境、地形・地質、風土に根ざした歴史の中で育まれた文化遺産や伝統芸能、多種多様な食材や郷土料理など、三陸地域の多様な魅力の国内外への発信と交流の活発化により、三陸地域への関心や認知度を高めながら、「新しい三陸の創造」につなげていくことを目的として、三陸地域全体を舞台とする総合的な防災復興行事「三陸防災復興プロジェクト2019」を開催します。

2 目指す姿とコンセプト

(1) 目指す姿

三陸防災復興プロジェクト 2019 は、復興のまちづくりに力強く取り組み、「新しい三陸の創造」に向かって歩みを進める地域の姿を発信し、復興の現状に対する関心を高め、東日本大震災津波の風化防止や国内外の防災力向上に資するとともに、当該事業を機に来訪した方に繰り返し訪れてもらえる三陸地域の形成を目指していきます。



(2) 基本コンセプト

三陸防災復興プロジェクト 2019 は、復旧や復興の取組を通して培われてきた、人と人、地域と地域のつながりや絆を財産としながら、持続的に復興や地域課題の解決に取り組んでいくとともに、様々なつながりを更に発展させていくため、事業は次の基本コンセプトの下で展開していきます。

三陸がつながる。

日本各地や世界とつながる。

ひとつになって 更に前に進む。

(3) 目指す姿を実現するための5つのテーマ

目指す姿を実現し、持続的な三陸地域の振興につなげていくため、事業毎のテーマとして次の5つを設定します。

【防災の啓発と伝承】 東日本大震災津波の記憶・記録を体系化し、教訓を国内外に伝えるとともに、後世へもつなぐこと。

【復興の現状の発信と支援への感謝】 復興に力強く取り組んでいる地域の姿の発信と、復興への支援に対する感謝を伝えること。

【つながり・関係の強化】 復旧・復興を機に培われた人と人、地域と地域の絆を更に深化させること。

【地域力の強化】 三陸の地域資源の魅力を的確に伝え、その価値を高め、地域経済の活性化に資すること。

【新たな交通ネットワークの活用】 復興道路、復興支援道路、三陸鉄道、定期フェリー等新しい交通ネットワークの効果を十分に発揮するとともに、様々な事業を通じて交流人口の拡大を図ること。

3 名称・会期・会場

(1) 名 称

三陸防災復興プロジェクト 2019

三陸地域を舞台とし、市町村、経済・観光・交通等の関係団体、高等教育機関、県及び国の関係機関など岩手の総力を挙げて 2019 年に実施する、総合的な防災復興行事であることを示す。

(2) 会 期

2019 年 6 月 1 日（土）～ 8 月 7 日（水） 計 68 日間

2019 年 3 月の三陸鉄道の一貫運行の開始時期、ラグビーワールドカップ 2019™ が釜石で開催される 9 月及び 10 月のほか、5 月の大型連休及び夏休み期間は、国内外からの多くの観光客の来県が見込まれる時期である。

そこで、観光の端境期である 6 月及び 7 月を中心に総合的な防災復興行事を開催し、岩手・三陸への継続的な交流人口の拡大を図っていく。

なお、会期末は、復興に力強く取り組んでいる地域の姿を示す代表として、気仙地域の七夕まつりと同一日に設定する。

(3) 会 場

主会場は、岩手県沿岸部の 13 市町村※全体を会場とするオープンエリア型とします。

なお、各事業の特徴に合わせ、内陸市町村とも連携した会場設定や、交流人口拡大に寄与する首都圏等での拠点駅などとも連携を進めていきます。

※岩手県沿岸部の 13 市町村

宮古市、大船渡市、久慈市、陸前高田市、釜石市
住田町、大槌町、山田町、岩泉町
田野畑村、普代村、野田村、洋野町



4 主催者等

(1) 主 催

三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会

(2) 共 催

東日本大震災津波の教訓や、復興支援への感謝を伝えながら、人と人・地域と地域の連携による新たな三陸の創造を目指す本プロジェクトは、岩手県内市町村や岩手県、国の関係機関等が実施する取組や、経済・観光・交通・報道等の関係団体や企業が実施する事業との連携を図るとともに、沿岸地域の住民をはじめとした岩手県民、県内外の復興支援者など多くの参画を募りながら、一丸となって実施することを目指しており、実行委員会とともにプロジェクトを作り上げていく団体等と共同で実施していきます。

(3) 協賛・協力団体

三陸防災復興プロジェクト 2019 に賛同する企業、NPOやコミュニティ団体、学校、国の関係機関などの参画を得ながら進めていきます。

なお、協賛、協力については、後述「6 参加・協働・連携の推進」において、基本的な考え方を示します。

5 事業計画

(1) 事業計画の基本的考え方

事業の計画については、5つのテーマに沿って、次の考え方で組み立てています。

なお、これらの事業は、復興の進捗状況や沿岸部の13市町村の状況等に鑑み、会場を含めた見直しの可能性もあることから、引き続き、事業内容については、実行委員会において検討、調整を進めていきます。

■基本的考え方

- 三陸防災復興プロジェクト 2019 の中核となる事業※は、大規模集客施設等の利用を想定し、沿岸の市部を中心に配置する。
- 沿岸部の13市町村で実施する共通のイベントを増やし、沿岸地域の住民をはじめとした岩手県民が誰でも・どこでも参加しやすい環境を構築することを目指す。
- 沿岸部の13市町村がオープンエリアである会場のスケールを生かし、三陸鉄道駅舎を中心とし、J R 八戸線、大船渡線 B R T（バス高速輸送システム）の関係駅や道の駅等とも連携した情報発信拠点の強化を図る。
- 開催期間中に、広く一般の参加者を対象とした事業を分散させ、期間内の来訪客数の平準化を図るとともに、会期後の継続的な事業展開を目指す。
- 誘客拡大が図られるよう、県内・県外向けのプレイベントによるプロモーションを強化するほか、東日本旅客鉄道株式会社（以下「J R 東日本」という。）が2019年4月から6月に予定している岩手重点販売とも連携することにより相乗効果を図る。
- イベント間の連携や連続性に配慮し、ハード面の共有による設備経費の軽減を図る。

※中核となる事業

後述(2)の事業類型の考え方において、A区分設定している事業。

(2) 事業類型の考え方

各事業を検討するに当たり、次のとおり事業類型を整理しています。

- 【A】 三陸防災復興プロジェクト 2019 を構成する中核的なイベント
- 【B】 広く一般参加者を対象としたイベント
- 【C】 特定層を対象としたイベント

(3) 事業名称の決定

基本計画から各事業の目的・実施内容を精査し、名称を以下のとおりとしました。

事業名称新旧対照表

No	基本計画	運営計画
1	三陸防災復興プロジェクト 2019 オープニングセレモニー	三陸防災復興プロジェクト 2019 オープニングセレモニー
2	三陸防災復興シンポジウム 2019	三陸防災復興シンポジウム 2019
3	オールいわて・祭りイベント	オールいわて・祭りイベント
4	さんりく音楽祭 2019	さんりく音楽祭 2019
5	三陸防災復興プロジェクト 2019 クロージングセレモニー	三陸防災復興プロジェクト 2019 クロージングセレモニー
6	LINK SANRIKU パビリオン	LINK SANRIKU 情報ステーション
7	いわてHAMAカフェ	いわて HAMA-MESHI プロジェクト
8	三陸ガーデンレールプロジェクト	三陸ステーションガーデンプロジェクト
9	三陸浜のにぎわいフェスタ (三陸浜のバーベキューガーデン)	「美味えがすと三陸 -Gastronomy SANRIKU-構想」推進プロジェクト
10	世界一のありがとうモニュメントプロジェクト	ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」
11	三陸ジオパーク ワクワクフェスタ	三陸ジオパーク ワクワクフェスタ
12	三陸ジオパーク フォトロゲイニングフェスティバル	三陸ジオパーク フォトロゲイニングフェスティバル
13	三陸防災復興展示会	三陸防災復興展示会
14	いわて創作アート&ものづくり文化祭	さんりく文化芸術祭 2019
15	三陸プレミアムディナー（ランチ）列車	三陸プレミアムランチ列車
16	三陸鉄道「さんりく流れ星」列車	三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」
17	いわて絆スポーツフェスタ	さんりく絆スポーツフェスタ
18	三陸応援団 元気お届けキャラバン	三陸応援団 元気お届けキャラバン
19	さんりく語り部交流列車	“復興の今” 学習列車
20	オリジナルお土産品等の開発企画	三陸お土産品プロモーション大作戦
21	いわて三陸学びの旅	いわて三陸学びの旅
22	いわて三陸ドライブ観光博	いわて三陸ドライブツーリズム

*基本計画では、仮称としていたもの

(4) 事業一覧

No.	事業名称	事業類型
No.1	三陸防災復興プロジェクト 2019 オープニングセレモニー	A
No.2	三陸防災復興シンポジウム 2019	A
No.3	オールいわて・祭りイベント	A
No.4	さんりく音楽祭 2019	A
No.5	三陸防災復興プロジェクト 2019 クロージングセレモニー	A
No.6	LINK SANRIKU 情報ステーション	B
No.7	いわて HAMA-MESHI プロジェクト	B
No.8	三陸ステーションガーデンプロジェクト	B
No.9	「美味えがすと三陸ーGastronomy SANRIKUー構想」 推進プロジェクト	B
No.10	ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」	B
No.11	三陸ジオパーク ワクワクフェスタ	B
No.12	三陸ジオパーク フォトロゲイニングフェスティバル	B
No.13	三陸防災復興展示会	B
No.14	さんりく文化芸術祭 2019	C
No.15	三陸プレミアムランチ列車	C
No.16	三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」	C
No.17	さんりく絆スポーツフェスタ	C
No.18	三陸応援団 元気お届けキャラバン	B/C
No.19	“復興の今” 学習列車	B/C
No.20	三陸お土産プロモーション大作戦	C
No.21	いわて三陸学びの旅	C
No.22	いわて三陸ドライブツーリズム	B

※ 各事業の具体的内容については、今後、次ページ以降の内容を基に、各市町村や関係団体等と調整を進めていきます。

その結果によっては、内容の変更もあり得るものです。

(5) 5つのテーマに関する各事業の位置づけ

前述「2(3) 目指す姿を実現するための5つのテーマ」に対する各事業の位置づけは、以下のとおりです。

5つのテーマ		事業名称
【防災の啓発と伝承】 東日本大震災津波の記憶・記録を体系化し、教訓を国内外に伝えとともに、後世へもつなぐこと。	→	・三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー ・三陸防災復興シンポジウム2019 ・三陸防災復興プロジェクト2019 クロージングセレモニー ・ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」 ・三陸防災復興展示会 ・“復興の今”学習列車 ・いわて三陸学びの旅
【復興の現状の発信と支援への感謝】 復興に力強く取り組んでいる地域の姿の発信と、復興への支援に対する感謝を伝えること。	→	・三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー ・三陸防災復興シンポジウム2019 ・オールいわて・祭りイベント ・さんりく音楽祭2019 ・三陸防災復興プロジェクト2019 クロージングセレモニー ・LINK SANRIKU 情報ステーション ・ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」 ・三陸防災復興展示会 ・さんりく文化芸術祭2019 ・三陸応援団 元気お届けキャラバン
【つながり・関係の強化】 復旧・復興を機に培われた人と人、地域と地域の絆を更に深化させること。	→	・三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー ・三陸防災復興シンポジウム2019 ・オールいわて・祭りイベント ・さんりく音楽祭2019 ・三陸防災復興プロジェクト2019 クロージングセレモニー ・LINK SANRIKU 情報ステーション ・三陸ステーションガーデンプロジェクト ・三陸防災復興展示会 ・さんりく文化芸術祭2019 ・さんりく絆スポーツフェスタ ・三陸応援団 元気お届けキャラバン
【地域力の強化】 三陸の地域資源の魅力を伝え、その価値を高め、地域経済の活性化に資すること。	→	・オールいわて・祭りイベント ・いわて HAMA-MESHI プロジェクト ・三陸ステーションガーデンプロジェクト ・「美味えがすと三陸-Gastronomy SANRIKU-構想」推進プロジェクト ・ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」 ・三陸ジオパーク ワクワクフェスタ ・三陸ジオパーク フォトリゲイニングフェスティバル ・三陸プレミアムランチ列車 ・三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」 ・“復興の今”学習列車 ・三陸お土産プロモーション大作戦 ・いわて三陸学びの旅 ・いわて三陸ドライブツーリズム
【新たな交通ネットワークの活用】 復興道路、復興支援道路、三陸鉄道、定期フェリー等新しい交通ネットワークの効果を十分に発揮するとともに、様々な事業を通じて交流人口の拡大を図ること。	→	・LINK SANRIKU 情報ステーション ・いわて HAMA-MESHI プロジェクト ・三陸ステーションガーデンプロジェクト ・「美味えがすと三陸-Gastronomy SANRIKU-構想」推進プロジェクト ・ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」 ・三陸ジオパーク ワクワクフェスタ ・三陸ジオパーク フォトリゲイニングフェスティバル ・三陸プレミアムランチ列車 ・三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」 ・“復興の今”学習列車 ・いわて三陸学びの旅 ・いわて三陸ドライブツーリズム

(6) 実行委員会主催事業及び関連事業の開催日程

	6月																														7月			
	1 土	2 日	3 月	4 火	5 水	6 木	7 金	8 土	9 日	10 月	11 火	12 水	13 木	14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水	27 木	28 金	29 土	30 日	1 月	2 火	3 水	
沿岸 13市町村 で展開	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
三陸鉄道 全線列車								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
洋野町																																		
久慈市																																		
野田村																																		
普代村																																		
田野畑村																																		
岩手町	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
宮古市																																		
山田町																																		
大槌町																																		
釜石市	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
住田町	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
大船渡市																																		
陸前高田市																																		

※「三陸応援団 元気お届けキャラバン」は宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、岩手町、野田村での実施を調整中。

※「三陸ジオパークフォーラム」は、開催地を調整中。

※「再建した県立病院の復興の歩みパネル展示及びオープンホスピタル等」は、久慈市、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市において、6/1～8/7に開催。

(注) 開催日程は、関係機関との調整及び他の事業との調整等により、実施時期の変更が生じる場合があります。また、関係事業については、今後の各事業の実施機関における具体的検討に基づき決定されるものです。

(7) 各事業の概要

No.	事業名称
No. 1	三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー
No. 2	三陸防災復興シンポジウム2019
No. 3	オールいわて・祭りイベント
No. 4	さんりく音楽祭2019
No. 5	三陸防災復興プロジェクト2019 クロージングセレモニー
No. 6	LINK SANRIKU情報ステーション
No. 7	いわて HAMA-MESHI プロジェクト
No. 8	三陸ステーションガーデンプロジェクト
No. 9	美味えがすと三陸 「—Gastronomy SANRIKU—構想」 推進プロジェクト
No. 10	ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」
No. 11	三陸ジオパーク ワクワクフェスタ
No. 12	三陸ジオパーク フォトロゲイニングフェスティバル
No. 13	三陸防災復興展示会
No. 14	さんりく文化芸術祭2019
No. 15	三陸プレミアムランチ列車
No. 16	三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」
No. 17	さんりく絆スポーツフェスタ
No. 18	三陸応援団 元気お届けキャラバン
No. 19	”復興の今” 学習列車
No. 20	三陸お土産品プロモーション大作戦
No. 21	いわて三陸学びの旅
No. 22	いわて三陸ドライブツーリズム

開 催 概 要	掲載 ページ
三陸防災復興プロジェクト2019の開幕に当たって、犠牲者への鎮魂とともに、復興に力強く取り組んでいる地域の姿の発信と、支援に対する感謝を示し、国内外の多様なつながりを深めるためのセレモニー	14-15
テーマ別のシンポジウム開催（全4回） ①これからの防災、②なりわいの再生と新たな三陸の創造、③地域コミュニティを基盤とした防災力の向上、④交通網を核とした交流の拡大	16-19
三陸地域の伝統芸能をはじめとする岩手の祭りを一堂に会したイベントの開催	20-21
①佐渡裕氏とスーパーキッズオーケストラによるコンサート、音楽クリニック、②復興支援のつながりを生かした音楽イベント（メディアと連携した音楽イベント、東京都交響楽団）	22-23
閉幕に当たって、国内外からの支援への感謝を伝えるとともに、復興を続ける三陸の“今”を発信するセレモニー	24-25
①道の駅や駅舎などの交通拠点や観光・防災関連施設等で、（ア）プロジェクト事業情報、（イ）地域情報・観光情報、（ウ）復興展示会、（エ）地域のアート活動の展示を実施。②情報ステーションや事業実施拠点等の周遊企画の実施	26-27
三陸の食財・レシピ・食文化等を提供する「HAMA-MESHI」店舗に登録食をきっかけとした周遊観光の促進につながるよう、食のガイドブックを作成し、スタンプラリーなどを実施	28-29
①ガーデニングの手法による三陸鉄道主要駅舎等の装飾 ②三陸鉄道沿線への花畑による新たな車窓風景の創作	30-31
三陸の食を軸にした地域振興に向けた①三陸国際ガストロミー会議や美食サロンの開催による国際的な美食ネットワークの形成、②著名シェフによる食のキャラバンの実施による三陸食材の発掘と情報を発信	32-33
地元小中学生との協働による、復興支援の感謝の気持ちを表す象徴的なモニュメント制作及び壁画完成行事 釜石鵜住居復興スタジアムで竣工記念行事を実施	34-35
三陸ジオパークの理解促進と、三陸ジオパークを契機としたレジャー振興 ①三陸ジオパークフォーラムの開催、②沿岸の博物館施設における岩手の海とジオの魅力展の開催、③親子釣りフェスタ&ジオツアーの開催	36-37
三陸沿岸ならではの新たな観光コンテンツの開発につなげるため、三陸ジオパークやみちのく潮風トレイルなどの地域観光資源を活用したフォトログイニングを実施	38-39
震災時の支援団体の活動の紹介や防災意識の啓発に向け、 ①体験型展示会（シンポジウムと併催）、②被災、復旧・復興活動のパネル展示会を実施	40-41
①復興支援活動を行う芸術団体（Reborn-Art Festival）との連携企画 ②沿岸地域の創作活動団体等による作品展示（No.6 情報ステーションで展示）	42-43
①三陸プレミアムランチ列車（有名シェフ監修の地元食材活用料理を提供） ②三陸うほほ列車（うに・ほや・ほたてを使用した料理を提供）	44-45
日本一長い第三セクター鉄道を楽しむ夜行列車企画	46-47
①ラグビーワールドカップのテストイベントとの連携、②東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連イベント、③著名人等とのスポーツ交流イベント	48-49
災害公営住宅自治会等のニーズに沿った、著名人によるコミュニティ形成支援活動	50-51
三陸鉄道を活用した震災学習列車 列車内外で震災学習する新たな列車の運行による震災の経験・記憶の伝承	52-53
各種コンクール等との連携によるオフィシャルお土産品の認定と、首都圏を含む販路拡大に向けたプロモーション	54-55
「復興の今を学ぶ」「三陸の豊かな地域資源を学ぶ」をテーマとした旅行商品の造成と、旅行エージェント招請によるコンテンツの磨き上げの実施	56-57
三陸沿岸道路等（復興道路及び復興支援道路）の開通を活かした車による周遊モデルルート構築と、スタンプラリーなどによる周遊の促進	58-59

※各事業の実施時期については、他の事業との調整等により変更が生ずる場合がある。



※写真はイメージです。

No.01

三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー

実施時期 **2019年6月1日(土)**

実施場所

・釜石市民ホール TETTO (釜石市)

実施主体

主催:三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催:釜石市(調整中)

事業目的

復興に力強く取り組んでいる地域の姿を伝え、国内外からの支援への感謝を改めて示し、復興支援により培われた多様なつながりをさらに深めていくとともに、この地を愛する方々それぞれが思い描く“復興の未来”へ向け、スクラムを組んで進む三陸の強い決意を、ラグビーワールドカップ2019™の開催地である釜石市から発信する。

ターゲット

オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)
【来場目標】 600人

実施市町村

釜石市

関連事業

No.2 三陸防災復興シンポジウム2019
No.13 三陸防災復興展示会

事業内容

三陸防災復興プロジェクト2019の開幕にあたって、犠牲者への鎮魂とともに、復興に力強く取り組んでいる地域の姿や、国内外からの復興への支援に対する心からの感謝の思いを発信する。

(1) オープニング・セレモニー

- ① 開会宣言
- ② 東日本大震災津波犠牲者への黙とう
- ③ 復興の取組状況の報告(実行委員会会長)
- ④ 海外からの支援活動に関するスピーチ(外国政府関係者)
- ⑤ 若者による復興に係る取組報告
- ⑥ 復興支援でつながりの深い八神純子氏によるトーク及びライブ

(2) オープニング・セレモニー後は、引き続き第1回「三陸防災復興シンポジウム2019」を開催。併せて、施設外において、防災復興に係る展示及び三陸の食を提供するブース等を設置し、多くの方の来場を促進する。

期待される効果

- ・ 三陸防災復興プロジェクト2019開催趣旨が国内外に発信される。
- ・ 東日本大震災津波への支援に対する感謝の気持ちと復興の歩みを進める地域の姿が発信される。
- ・ 会期中の各事業の周知と参加機運の醸成が図られる。
- ・ 釜石で開催されるラグビーワールドカップ2019™の盛り上がりにつながる。

今後の展開方向

- ・ 国内外から寄せられた復興支援をきっかけとして生まれたつながりのさらなる強化を図る。



※写真はイメージです。

No.02

三陸防災復興シンポジウム2019

※事業No.13「三陸防災復興展示会」と一体開催

実施
時期

第1回 2019年6月1日(土)～6月2日(日)
第2回 2019年6月28日(金)～6月29日(土)
第3回 2019年7月19日(金)～7月20日(土)
第4回 2019年7月26日(金)～7月27日(土)

実施場所

- ・第1回 釜石市民ホール(釜石市)
- ・第2回 久慈市文化会館(久慈市)
- ・第3回 大船渡市民体育館(大船渡市)
- ・第4回 宮古市市民交流センター(宮古市)

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催：開催地市町村(調整中)

事業目的

復興に取り組んでいる地域の姿を発信し、震災の風化を防ぐとともに、国内外からの復興への支援に対する感謝を示す。

東日本大震災津波の記憶と教訓を伝えることにより、日本国内はもとより、世界の防災力向上へ貢献する。

ターゲット

自治体関係者(県内外)、国内外の防災関係者、全国の地方公共団体等からの応援職員、ボランティアでつながりを持った方々、一般参加者

【集客目標】 13,600人(シンポジウム 1,100人、展示等 12,500人(全4回延人数))

実施市町村

宮古市、大船渡市、久慈市、釜石市

関連事業

- No.1 三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー
(第1回シンポジウムと一体的に開催)
- No.13 三陸防災復興展示会(各シンポジウムと一体的に開催)

事業内容

2015年に宮城県仙台市で開催された第3回国連防災世界会議において、各国は防災への決意を確認した。当該会議で行動指針として策定された「仙台防災枠組2015-2030」に掲げる「災害への備えの向上とより良い復興(Build Back Better)」につながるよう、4つのテーマで防災力強化や被災後の地域の再生を考えるためのシンポジウムを開催する。

(1)第1回[釜石市]:これからの防災

東日本大震災津波の教訓と、今後の災害に対する回復力や強靱性を高めるために必要とされる平時の備えについて討論を行う。

①シンポジウム・パネルディスカッション

ア 復興活動報告

東日本大震災津波に対する国際的な支援活動の状況や、若者をはじめとした地域住民によるまちの再生に向けた活動状況の報告

イ 今後の防災力向上に向けた講演及びパネルディスカッション

国際的な防災の動きのほか、災害に対する回復力や強靱性の向上に対する有識者の講演とともに、これからの防災や災害救助に向けたパネルディスカッションを実施

②現地視察及び分科会

鵜住居地区の津波伝承施設や釜石鵜住居復興スタジアム等、釜石市内の復興及び防災の象徴となる施設の視察のほか、復興教育及び災害看護を中心とした分科会を開催

(2)第2回[久慈市]:なりわいの再生と新たな三陸の創造

産業分野における災害リスク軽減に向け、東日本大震災津波の事実を踏まえた教訓を発信する。併せて、単に元に戻すことにとどまらない産業復興のあり方について議論を深める。

①シンポジウム

ア 産業分野における災害リスク軽減に向けた講演

東日本大震災津波を教訓とした災害リスク軽減に向けて必要となる取組等に係る講演

イ 活動状況等報告

東日本大震災津波のほか、近年の災害被災地における産業復興に向けた取組の現状と今後の展望に係る報告

②現地視察

基幹産業の復興の取組現場や、復興とともに新たな産業の創出に向けた動きを進めている地域の現地視察の実施

事業内容

(3)第3回[大船渡市]:地域コミュニティを基盤とした防災力の向上

大災害における地域防災力の発揮に向けて、何が必要か議論を深める。

①地域における防災力強化に向けた講演

ア 地域コミュニティを基盤とした防災力強化に向けて必要となる取組に係る講演

イ 活動状況等報告

自主防災組織等の活動と大震災の教訓を踏まえた今後の展望に係る報告のほか、地域防災力強化に向けた全国各地域の活動状況の報告

②現地視察

開催地の復興拠点整備の状況のほか、自主防災組織の拠点等の視察

(4)第4回[宮古市]:交通インフラの復旧・復興と交通網を核とした交流の拡大

①交通を中核とした取組に係る情勢報告

フェリーの運航を契機とした北海道胆振地区との連携のほか、新たな交通ネットワークを生かした交流の現状と今後の展望に係る報告

②新たな交通網を核とした交流の拡大に向けたディスカッションの実施

期待される効果

- ・ 東日本大震災津波からの復興の取組や被災地域の状況の発信を通じて、風化の防止が図られ、復興への理解や継続的な支援・参画が促進される。
- ・ 若者の活動の場や国内外の支援者との交流の場の創出により、支援者とのつながりが強化され、次世代へ継承される。
- ・ 東日本大震災津波の経験を踏まえた取組を共有することにより、住民の防災意識の向上が図られる。
- ・ 平時から備えるべき事柄の発信により、地域の防災力の向上が図られるとともに、国内外の防災力の向上に寄与することができる。

今後の展開方向

- ・ 東日本大震災津波の事実と教訓、復興の取組により培われた知見の発信により、世界の災害リスク軽減戦略の策定に資するなど、「復興」と「防災」の先進的地域として、日本各地や世界とつながり、将来の防災力向上に貢献する。
- ・ 復興の発信活動や支援者との交流等に若者が参画することにより、次世代に防災の知見や支援者とのつながりが継承されるとともに、復興とその先の地域振興をけん引する人材の育成につなげる。
- ・ 防災教育の推進や啓発活動を通じ、地域の防災力を強化し、防災文化として培っていく。
- ・ つながりや絆を交流へと発展させていくとともに、復興を担う人材育成やネットワークの強化を図り、復興の取組を進める。
- ・ 三陸地域の多様な魅力の発信や、新たな交通ネットワークなどを活用した観光・産業振興等のまちづくりについて学ぶことにより、地域産業の振興や交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。



※写真はイメージです。

No.03

オールいわて・祭りイベント

実施時期 **2019年6月～8月** ※2日間開催予定

実施場所 別途公表

実施主体 別途公表

事業目的 震災により多くの文化施設、文化芸術資源が被災し文化芸術活動の継承が危ぶまれた中、県内はもとより、全国の多くの支援によって郷土芸能、祭り文化は再生しつつあり、震災を契機に多くの若者達がその地域文化を改めて見直し、その継承に取り組んでいる。支援への感謝と、復興へ向けた岩手県の強い決意と力(パワー)を三陸の地から祭りの熱気を持って発信、共有する。

本事業を契機として、岩手県内の郷土芸能を一堂に集めたお祭りイベントを継続して開催することを目指していく。

ターゲット オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)
【集客目標】別途公表

実施市町村 別途公表

関連事業 No.20 三陸お土産品プロモーション大作戦
No.22 いわて三陸ドライブツーリズム

事業内容

岩手県内の郷土芸能と三陸地域の祭りを一堂に集めた三陸防災復興プロジェクト最大規模の集客事業として実施する。

内陸部と沿岸部の文化交流の拡大、促進を目的として多様な団体の参画を募る。

三陸地域の食や観光などを紹介する出展ブースエリアを併設し、大規模集客を前提に多様な「文化」の発信と拡散を図る。

(1) 郷土芸能ステージ等

- ・ 県内の郷土芸能団体(県内33市町村の伝統芸能)を招聘し、演舞を実施する。
- ・ 本事業を契機とした三陸地域の祭りへの関心の喚起・誘客へとつなげていく。

(2) グルメ祭り

- ・ 三陸地域の食のPRを中心的な目的とし、三陸の食材・レシピ・食文化等を生かしたブースを出展

期待される効果

- ・ 本事業の開催により、郷土芸能等の再生に係る全国からの支援への感謝の想いが発信される。
- ・ 郷土芸能を通じた内陸地域と三陸地域との文化交流の拡大が図られる。
- ・ 本事業をきっかけとした各市町村の祭りの情報発信と、各地域の祭りへの関心の醸成と会期中の誘客促進が図られる。

今後の展開方向

- ・ 文化芸術の発表の場を確保することにより、継承する人材の育成や地域の活性化につなげる。
- ・ 岩手県の歴史や伝統文化を知り、広く共有する機会を創出する。



※写真はイメージです。

No.04

さんりく音楽祭2019

実施時期 **2019年6月22日(土)～8月4日(日)**

実施場所

宮古市、大船渡市、久慈市、釜石市、大槌町、山田町、田野畑村、野田村、洋野町

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会

共催：開催地市町村(調整中)

協力：兵庫県立芸術文化センター、公益財団法人東京都交響楽団

事業目的

震災後において、県内各地で音楽家による復興支援公演や新たな文化芸術イベントが開催されるなど、文化芸術は復興に向けた動きの中で、人々に安らぎと勇気を与え、地域の絆を強め、新たな交流を生み出し、復興に取り組む方々を励ます「復興の力」となっている。

音楽の持つ力を重視し、これまでに県内で復興支援に取り組んでいただいた様々な音楽関係団体等とのつながりを生かしながら、多彩な音楽イベントを開催し、地域の活力向上につなげる。

ターゲット

オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)

【集客目標】3,000人

実施市町村

宮古市、大船渡市、久慈市、釜石市、大槌町、山田町、田野畑村、野田村、洋野町

関連事業

事業内容

三陸地域各地で、世界的に有名な音楽家等の出演によるクラシックコンサートなど多彩な音楽イベントを実施する。

(1) 佐渡裕氏とスーパーキッズ・オーケストラによるコンサート及び音楽クリニック

東日本大震災津波発災後、継続して沿岸部において復興支援に取り組んでいただいている世界的な音楽家の佐渡裕氏とスーパーキッズ・オーケストラによるコンサートや音楽クリニックを以下の日程で実施する。

日程:2019年7月31日(水)～8月4日(日)

場所:大船渡市(7/31)⇒釜石市、大槌町、山田町(8/1)

⇒宮古市、田野畑村(8/2)⇒久慈市(8/3)⇒洋野町(8/4)

久慈市でのコンサートにおいては、震災発生以降、復旧・復興活動の最前線で活躍した警察、自衛隊、消防の音楽隊等との共演を要請する。

(2) その他復興支援のつながりを生かした音楽イベント

① メディアと連携した音楽イベント

被災地支援に取り組んでいただいているメディアと連携し、音楽イベントを三陸地域で実施する。

② 東京都交響楽団による演奏会

東京都交響楽団が、震災後継続して取り組んでいただいている野田村での小学校や保育所等に通う子どもたちに向けた演奏会を、プロジェクトの一環として2019年も実施する。

期待される効果

- ・ 世界的に有名な音楽家等の演奏や合唱を通じた音楽交流の実施により、三陸地域で音楽活動に取り組む学生が「夢・憧れ」、「希望」を持つことにつながる。
- ・ 音楽を通じた復興支援をきっかけとして生まれたつながりのさらなる強化が図られる。

今後の展開方向

- ・ 多様な音楽イベントをきっかけとして開催後の文化芸術交流の促進を図る。
- ・ 音楽活動に触れる機会や発表の場を設けていくことで、三陸地域の文化芸術活動の振興を図る。



※写真はイメージです。



No.05

三陸防災復興プロジェクト2019 クロージングセレモニー

実施時期 **2019年8月7日(水)**

実施場所

・夢アリーナたかた(陸前高田市)

実施主体

主催:三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催:陸前高田市(調整中)

事業目的

三陸防災復興プロジェクト2019の閉幕にあたって、復興に力強く取り組んでいる地域の姿、国内外からの復興への支援に対する感謝、国内外の防災力向上への貢献及び三陸地域の多様な魅力の発信を行ってきた本プロジェクトを振り返りながら、未来に向け持続的な発展を目指す三陸の強い決意を発信する。

ターゲット

オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)
【来場目標】1,000人

実施市町村

陸前高田市

関連事業

事業内容

復興支援に対する感謝を伝えるとともに、復興を続ける三陸の“今”を発信する。

(1)クロージング・セレモニー

- ① 高校生等による追悼の合唱
- ② 東日本大震災津波犠牲者への黙とう
- ③ 本プロジェクトの開催報告(会期中の記録映像紹介を含む)
- ④ 「未来の希望」を表現するスピーチ
- ⑤ 閉会宣言と併せた「新しい三陸の創造」を目指す宣言(実行委員会会長)

(2)クロージング・コンサート

復興支援でのつながりのある坂本龍一氏と東北ユースオーケストラ(弦楽四重奏)によるコンサート

期待される効果

- ・ 引き続き復興に取り組んでいく地域の姿と、未来に向け持続的な発展を目指す強い決意が発信される。
- ・ 復興支援をきっかけとして生まれた多様なつながりに対する感謝の想いが広く発信される。

今後の展開方向

- ・ 復興支援をきっかけとして生まれた国内外との多様なつながりのさらなる強化を図る。
- ・ つながりの力を源泉とし、多様な主体との連携・協働による三陸地域の振興を推進する。



※写真はイメージです。

No.06

LINK SANRIKU 情報ステーション

実施時期 **2019年6月1日(土)～8月7日(水)**

実施場所

関係市町村の情報発信拠点※

※三陸鉄道の駅舎、道の駅、観光・防災関連施設等

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会

共催：沿岸13市町村(調整中)

事業目的

地域連携によるにぎわいの創出を目指して、三陸防災復興プロジェクト2019の会場である沿岸13市町村全てに情報発信拠点を設置のうえ、地域情報や本プロジェクトの情報を発信するとともに、復興展示等の併催を通じてプロジェクト全体の開催趣旨や意義を伝える。

また、当該施設も含め、三陸地域における周遊を促すことにより三陸地域の観光客や交流人口の拡大など二次的な展開を促進する。

ターゲット

オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)

【集客目標】10,000人

実施市町村

沿岸13市町村

関連事業

No.13 三陸防災復興展示会

No.14 さんりく文化芸術祭2019

No.22 いわて三陸ドライブツーリズム

事業内容

(1) 情報発信拠点整備

交通拠点(道の駅、JRや三陸鉄道の駅舎)や観光・防災関連施設等を拠点として、地域情報や本プロジェクトの情報を発信するとともに、当該施設に併設する復興展示等の本プロジェクト事業を観覧してもらう。

発信する情報や展示の内容は施設の規模等に応じて行うこととするが、主な内容は下記のとおりとする。

- ① 三陸防災復興プロジェクト2019の事業情報
- ② 各市町村の地域情報・観光情報
- ③ 復興展示会の併設
- ④ 地域の団体のアート活動などの作品展示

(2) 周遊企画

情報ステーションも含め各事業拠点の周遊を促すため、人気コンテンツとも連携し、スマートフォン等を活用した周遊企画を実施し、三陸地域の観光など二次的な展開を促進する。

期待される効果

- ・ 各地域の多様な魅力や三陸防災復興プロジェクト2019の事業、復興の取組、地域のアート活動等の総合的な情報発信が図られる。
- ・ 地域の創作活動団体等のアート作品などの展示により住民の参画意識の向上が図られる。
- ・ スマートフォン等を活用したスタンプラリー実施により観光客等の周遊とSNS等を通じた情報拡散が促進される。

今後の展開方向

- ・ 情報発信拠点を基点とした周遊企画の実施により、広域観光ルートの形成を促進する。
- ・ 各地域ならではの多様な地域資源を生かした総合的な情報発信の仕組みの継承及び充実を図る。

No.07



※写真はイメージです。

いわて HAMA-MESHI プロジェクト

実施時期 **2019年6月1日(土)～8月7日(水)**

実施場所

沿岸13市町村の飲食店、宿泊施設等、三陸防災復興シンポジウム会場

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会

事業目的

沿岸13市町村の飲食店、宿泊施設等民間事業者など、関係機関が一体となり、三陸の豊かな農林水産物や食文化等の食の魅力を発信し、「食のおもてなし拠点」を形成することで、観光客等の三陸地域における食をきっかけとした周遊促進を図る。

ターゲット

オールターゲット(主に観光客、飲食事業者等)
【集客目標】30,000人

実施市町村

沿岸13市町村

関連事業

- No.2 三陸防災復興シンポジウム2019
- No.9 「美味えがすと三陸-Gastronomy SANRIKU-構想」推進プロジェクト
- No.20 三陸お土産プロモーション大作戦
- No.22 いわて三陸ドライブツーリズム

事業内容

三陸の豊かな地域資源の一つにあげられる「食」に焦点をあて、三陸の食材・レシピ・食文化等を提供するHAMA-MESHI店舗を募集・登録することで、三陸の食を発信していく。

また、沿岸13市町村の民間事業者の多くの参加を目指し、会期中に限定メニュー等を提供する店舗も登録する枠組みを構築し、本プロジェクトの一体的な盛り上がりで経済波及効果を高めるよう取り組んでいく。

(1) HAMA-MESHI店舗の登録

沿岸13市町村の飲食店、宿泊施設等を対象に、本事業の趣旨に賛同する事業者を募集・登録し、各店舗・施設について、オリジナルの食のガイドブックへの掲載や、公式HP、SNS等の各種媒体の活用による情報発信を行い、本事業内容について広く周知し、誘客促進を図る。

[登録基準例]

① 三陸地域ならではのメニューを提供する店舗

- ・ 三陸の食材を使用したメニュー
- ・ 三陸の歴史・食文化に基づいたメニュー
- ・ 三陸の郷土料理や浜料理など、地域に根付いているレシピを活用したメニュー
- ・ 地域ごとに取り組んでいる共通メニュー

② その他サービスの提供

プロジェクト趣旨に賛同し、会期中に特別メニューを提供するなどサービスを提供し、事業の盛り上げを図ることができる施設

[サービス例]

- ・ ウェルカムドリンク、デザート、割引等

(2) 誘客促進ツールの作成

- ・ 登録店及びお土産品を掲載した「食の公式ガイドブック」の作成
- ・ HAMA-MESHI店舗のスタンプラリーの実施

(3) 岩手県漁協女性部連絡協議会と連携したシンポジウム会場でのおふるまいの実施

三陸防災復興シンポジウム2019会場において、漁協女性部と連携し、各会場において来場者に浜料理のおふるまいを行う。

期待される効果

- ・ 飲食店、宿泊施設等多くの民間事業者が参画することにより、三陸の豊かな農林水産物や食文化等の食の魅力が発信され、「食のおもてなし拠点」が形成されることで、三陸地域全体の盛り上がりや賑わいの創出が図られる。
- ・ 食の公式ガイドブック等の活用により飲食店や宿泊施設、お土産品の認知度向上が図られる。
- ・ HAMA-MESHI店舗のスタンプラリーの実施による食をきっかけとした周遊観光の促進が図られる。

今後の展開方向

- ・ 次期総合計画「長期ビジョン」(案)の三陸防災復興ゾーンプロジェクトに掲げる、三陸の豊かな資源を活用した、世界に誇れる食のまちを形成する取組を推進する。
- ・ 三陸地域の自然の恵みや先人の知恵によって生み出された食文化の魅力を発信、継承する。



※写真はイメージです。

No.08

三陸ステーションガーデン プロジェクト

実施時期

創作／2019年4月～5月

公開／2019年6月～8月

実施場所

三陸鉄道駅舎(有人駅)の駅前、駅構内、ホーム等

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会

共催：三陸鉄道株式会社、関係市町村(調整中)

事業目的

三陸鉄道の駅舎や、鉄道の乗客が車窓から見る駅舎周辺の風景そのものを地域の新たな観光資源と見立てて、三陸鉄道への集客促進と三陸沿岸における各地域拠点の賑わいづくりを図る。

ターゲット

オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)

実施市町村

三陸鉄道沿線部の市町村

関連事業

No.6 LINK SANRIKU 情報ステーション

事業内容

三陸観光の玄関口となる三陸鉄道の主要駅舎等において、ガーデニング装飾や花畑の創作等による景観形成を行う。

(1)三陸鉄道の主要駅のステーションガーデン化

三陸鉄道の主要駅舎(有人駅)において、ガーデニングの専門家等によるデザイン形成及び技術指導のもと、地域住民等が協働・参画のうえ、プランター、ハンギングバスケット等の活用や植栽等による装飾を施し、三陸観光の玄関口にふさわしい花と緑にあふれる駅舎(ステーションガーデン)の創出を図る。

(2)三陸鉄道沿線における花畑による新たな車窓風景モデルの創作

三陸鉄道の沿線において、花畑(シバザクラ)による新たな車窓風景モデルを創作する(1カ所)。花畑の創作作業はステーションガーデンと同様に、地域住民等の協働・参画を得て実施する。

期待される効果

- ・ 地域の観光資源としての駅舎や車窓の景観形成により、三陸鉄道の新たな魅力づくりや利用客の増加が図られる。
- ・ 三陸鉄道主要駅周辺の交流人口の拡大により、地域の賑わいの創出が図られる。

今後の展開方向

- ・ 三陸鉄道の駅舎や車窓の景観を形成する取組を通じて、地域住民のまちづくりへの協働・参画を促進する。



※写真はイメージです。

No.09

「美味(うんめ)えがすと三陸 —Gastronomy SANRIKU—構想」 推進プロジェクト

実施時期 (1)国際会議:2019年6月10日(月)~6月11日(火)
(2)交流会:2019年6月10日(月)
(3)美食サロン:2019年6月1日(土)~8月7日(水)
(4)関連事業:2019年6月1日(土)~8月7日(水)

実施場所

- (1) 国際会議:宮古市民文化会館(宮古市)
- (2) 交流会:浄土ヶ浜パークホテル(宮古市)
- (3) 美食サロン:沿岸13市町村の協賛レストラン
- (4) 関連事業:沿岸13市町村

実施主体

主催:三陸国際ガストロノミー会議2019実行委員会
共催:三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会

事業目的

三陸防災復興プロジェクト2019における「食」関連イベントの実施を契機としつつ、「美味(うんめ)えがすと三陸—Gastronomy SANRIKU—構想」を継続的に推進することにより、三陸の食を軸に据えた地域振興を図る。

ターゲット

オールターゲット(国内外の消費者、料理人及び農林水産業・流通関係者等)
【集客目標】 2,700人

実施市町村

沿岸13市町村

関連事業

- No.7 いわて HAMA-MESHI プロジェクト
- No.15 三陸プレミアムランチ列車
- No.20 三陸お土産品プロモーション大作戦

事業内容

三陸防災復興プロジェクト2019会期中に、国内外の著名なシェフ等が一堂に会する「三陸国際ガストロノミー会議2019」、県産農林水産物等を集めた「いわて黄金食財見本市」、国内外料理人が腕を振るう「三陸美食サロン」を実施する。

三陸防災復興プロジェクト2019の開催に合わせ、国内外の著名なシェフによる三陸と世界をつなぐ「食」のキャラバンを実施する。

(1) 国際的な美食ネットワークの形成

① 「三陸国際ガストロノミー会議2019」及び「いわて黄金食財見本市」の開催

ア 国内外から料理関係者を招き、県産食材の魅力を発信する祭典を開催

イ 著名シェフや研究者、関連企業等を集め、料理の技術や哲学、最新の知見等を発表・共有

② 「三陸美食サロン」の開催

沿岸13市町村の主要なレストランにおいて、国内外の料理人と地元の料理人が腕を振るう「三陸美食サロン」を実施

(2) 三陸食材の発掘と情報発信

① 三陸と世界をつなぐ「食」のキャラバンの開催

ア 三陸の「食」の豊かさを再発見するため、沿岸各地において、国内外の著名なシェフによる産地視察を実施

イ 地元住民の食を楽しむ活動の理解を醸成するため、地元の漁業者や女性、子供等を集めた料理教室等を開催

② 食の親善大使の任命

三陸国際ガストロノミー会議2019の出席者等を「食の親善大使」に任命し、県産食材の良さやこだわりをPR

期待される効果

- ・ 「美食」をきっかけとした世界に誇れる三陸食材のブランド力の向上が図られる。
- ・ 三陸の豊かな食材を使用した新たなご当地料理が創作される。
- ・ 食と観光の相乗効果により、交流人口の拡大と三陸地域の活性化が図られる。

今後の展開方向

- ・ 次期総合計画「長期ビジョン」(案)の三陸防災復興ゾーンプロジェクトに掲げる、三陸の豊かな食材や食文化を活用したフードツーリズムの推進など、世界に誇れる食のまちを形成する取組を推進する。
- ・ 「ガストロノミー」(美食術・食文化)を軸とした農林漁業や観光の振興等の取組により、三陸地域を中心とする地域振興のエンジンとしての位置づけを確立する。
- ・ 本県の農山漁村資源を活用して、6次産業化や農商工連携、さらに、調理技術のイノベーションに向けた取組を積極的に推進することにより、新たな「食」の魅力を発信する。
- ・ 三陸地域に観光客を呼び込みながら、地域経済の好循環を促すことにより、農山漁村の継続的な発展を推進する。



※写真はイメージです。

No.10

ホタテモザイクアート 「ありがとう貝画(かいが)」

2019年3月
「ありがとう貝画」の制作

実施
時期

2019年6月
「ありがとう貝画」の
釜石鵜住居復興スタジアム敷地内への設置

実施場所

釜石鵜住居復興スタジアム敷地内(予定／釜石市)

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催：釜石市、ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会、
スマイルとうほくプロジェクト※(調整中)

※スマイルとうほくプロジェクト：被災3県の新聞社(岩手日報社、河北新報社、福島民報社)が共同で運営。
震災の記録を伝える活動や地域に根差した復興支援活動を行っている。

事業目的

復興支援への感謝の気持ちを表す象徴的なモニュメントを制作・展示することにより、地域の復興への思いを次世代に継承する。

また、本プロジェクト後に釜石で予定されているラグビーワールドカップ2019™を目的として来訪する国内外の観戦客等に対して、感謝と歓迎の心を伝える。

ターゲット

オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)
【集客目標】1,500人

実施市町村

釜石市

関連事業

事業内容

ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」の制作・展示

- ・ かまいし絆会議(釜石市内の小中学生)と連携し、地元の子どもたち発案による絵柄デザインを考案する。
- ・ 三陸産ホタテの貝殻を使用し、かまいし絆会議の子どもたち等が着色し、モザイクアートを制作する。
- ・ 三陸鉄道の一貫運行の開始時期と合わせ、2019年3月に貝画完成イベントを実施する。
- ・ プロジェクト会期中に釜石鵜住居復興スタジアム敷地内に貝画を設置し、完成除幕式等を実施する。

期待される効果

- ・ 復興支援への感謝や復興への思いの共有が図られる。
- ・ 本プロジェクトの開催趣旨である「復興支援への感謝」、「つながり・関係の強化」がモニュメントづくりを通して具現化され、発信される。
- ・ 本作品の創作を通じて、地域住民の参画意識や一体感の醸成が図られる。
- ・ 本プロジェクト及び釜石で開催されるラグビーワールドカップ2019™日本大会の盛り上がりにつながる。

今後の展開方向

- ・ 三陸地域における子供たちをはじめとする地域住民の文化芸術活動の振興を図る。



※写真はイメージです。

No.11

三陸ジオパーク ワクワクフェスタ

実施
時期

- (1)三陸ジオパークフォーラム
2019年6月下旬～7月中旬
- (2)岩手の海とジオの魅力展
2019年6月1日(土)～8月7日(水)
- (3)親子釣りフェスタ&ジオツアー
2019年8月上旬

実施場所

- (1)三陸ジオパークフォーラム
沿岸地域の小中ホール及び多目的研修施設
- (2)岩手の海とジオの魅力展
もぐらんぴあ(久慈市)、崎山貝塚縄文の森ミュージアム・県立水産科学館(宮古市)、
鯨と海の科学館(山田町)、釜石市郷土資料館(釜石市)、大船渡市立博物館・
陸前高田市立博物館(大船渡市にて共同開催)、岩泉町(調整中)
- (3)親子釣りフェスタ&ジオツアー(調整中)

実施主体

主催:三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催:開催地市町村、三陸ジオパーク推進協議会(調整中)

事業目的

三陸ジオパークに携わる関係者の交流、情報交換の場を設けることにより、三陸ジオパークに関する認識等を共有し、機運醸成を図る。
三陸ジオパークを題材とした親子や子供たちの学びの機会を提供するとともに、三陸ジオパークの魅力を発信する。
本プロジェクトを通じた三陸ジオパークに関する普及啓発や理解促進に取り組む。
三陸ジオパークを契機とした三陸エリアのレジャー振興・拡大を図る。

ターゲット

オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)
【集客目標】36,000人

実施市町村

宮古市、大船渡市、久慈市、釜石市、山田町、岩泉町

関連事業

No.12 三陸ジオパーク フォトリゲイニングフェスティバル

事業内容

夏休みを利用し、親子や仲間と楽しめるジオパークの場を提供する。

期間を設け、沿岸地域にイベントを点在させたオープンエリアイベントとして周遊と交流促進を図る。

(1)三陸ジオパークフォーラム

基調講演のほか、岩石標本作りなどの「三陸ジオパーク体験学習」を実施するとともに、フォーラムに参加するジオパーク関係者に対して、交流会やエクスカーションツアー(体験型見学会)を実施する。

(2)岩手の海とジオの魅力展

① 三陸ジオパークに点在する博物館施設等による共同展示

三陸ジオパークに点在する博物館施設がそれぞれの強みを生かし、三陸ジオパークの地質・歴史・生息する生物等に関する展示を行い、各施設がつながることで、「三陸のひとつの大きな博物館」として展示を行い、県内外の多くの方々に三陸ジオパークの魅力に触れてもらう。

② 国立科学博物館と県立博物館の共同巡回展示

国立科学博物館と連携し、地質・歴史・生物にまつわる資料を三陸地域の博物館施設等において巡回して展示する。

(3)親子釣りフェスタ&ジオツアー

ジオツアーを通じて、三陸ジオパークの自然や震災遺構等を学ぶ機会を創出するとともに、釣りや魚の生態を通じて子供たちが三陸ジオパークの自然を学ぶ親子釣りイベントを実施する。

期待される効果

- ・ 三陸ジオパークの重層的な情報発信により認知度の向上が図られる。
- ・ 三陸ジオパーク、海をテーマにした親子での学びの場が提供される。
- ・ 三陸ジオパークを核とした夏休み自由研究、総合学習の場が提供される。

今後の展開方向

- ・ 次期総合計画「長期ビジョン」(案)の三陸防災復興ゾーンプロジェクトに掲げる、三陸の地質遺産や文化・自然を活用した教育、保護・保全と国内外への情報発信、ジオツーリズムなどに取り組むジオパーク活動の振興を図る。
- ・ 三陸ジオパークに関する普及啓発・理解促進を図る。
- ・ 三陸地域の博物館施設の横の連携を深め、会期後も様々なテーマで独自の連携が図られる。

No.12

三陸ジオパーク フォトロゲイニングフェスティバル

実施 2019年6月15日(土)沿岸南部エリア(釜石市~大槌町)
時期 2019年7月6日(土)沿岸北部エリア(普代村~野田村)



※写真はイメージです。
※写真提供
(一社)日本フォトロゲイニング協会

実施場所 釜石市及び大槌町、普代村及び野田村

実施主体 主催:三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催:開催地市町村、三陸ジオパーク推進協議会(調整中)
監修:一般社団法人日本フォトロゲイニング協会

事業目的 三陸ジオパークや震災遺構、みちのく潮風トレイルなどを組み合わせて、沿岸市町村を対象とした新たな観光コンテンツの開発、掘り起こしを図る。
周遊観光や防災教育の観点から関心が高まっているフォトロゲイニング※を活用し、三陸ジオパークやみちのく潮風トレイルを周遊してもらう新たな学びの旅の観光コンテンツを開発し、定着を図る。

※フォトロゲイニング

地図をもとに、時間内にチェックポイントを回り、得点を集めるスポーツ。参加は2~5人のチームで、チェックポイントではメンバーを入れて見本と同じ写真を撮影する。地図上の数字がそのまま得点となり、より合計点の高いチームが上位。一般的には3時間~5時間。いかに“効率よく”、“楽しんで”回れるかが作戦のカギで、観光やチームビルディングの要素も注目されている。

ターゲット オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)
【集客目標】400人

実施市町村 釜石市、大槌町、普代村、野田村

関連事業 No.11 三陸ジオパーク ワクワクフェスタ

事業内容

三陸ジオパークやみちのく潮風トレイルといった三陸沿岸ならではの地域資源などを活用したフォトロゲイニング大会の試行により、新たな三陸の観光コンテンツ開発につなげる。

- ・ 三陸ジオパークに代表される三陸沿岸の景勝地や震災遺構、みちのく潮風トレイルなどを組み入れたルート設計を行い、スポーツ・観光・防災教育が連動した大会を三陸沿岸地域の2カ所で開催する。
- ・ 同大会の開催を通じて、報道及びSNS等により三陸ジオパークなどの魅力の発信及び周遊の促進を図る。

期待される効果

- ・ 三陸ジオパークの認知度向上が図られる。
- ・ 三陸地域の魅力発信、周遊促進により、交流人口の拡大が図られるとともに、「写真」を切り口にSNS等を通じた情報発信が促進される。
- ・ 災害時に自ら考え動く力や地図読解力の向上など、参加者の防災意識の醸成につながる。

今後の展開方向

- ・ 次期総合計画「長期ビジョン」(案)の三陸防災復興ゾーンプロジェクトに掲げる、三陸の魅力的な自然環境を活用した、スポーツツーリズムの推進により交流の活性化を図る。
- ・ 次期総合計画「長期ビジョン」(案)の三陸防災復興ゾーンプロジェクトに掲げる、三陸の地質遺産や文化・自然を活用した教育、保護・保全と国内外への情報発信、ジオツーリズムなどに取り組むジオパーク活動の振興を図る。
- ・ 地域主導型の防災及び減災意識の持続的な啓発を図る。
- ・ フォトリゲイニングの開催を通じて、三陸地域における新たな観光資源の開拓や体験型観光のメニュー開発の促進を図る。



※写真はイメージです。

No.13

三陸防災復興展示会

実施時期 **2019年6月1日(土)～8月7日(水)**

実施場所

三陸防災復興シンポジウム会場隣接地、沿岸13市町村の公共施設など

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催：沿岸13市町村(調整中)

事業目的

東日本大震災津波の記憶と教訓を伝えるとともに、災害時の対応知識や防災用品を広く県民に対して周知することにより、日常生活における防災意識を高める。

ターゲット

オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)
【集客目標】12,500人(※No.2三陸防災復興シンポジウム2019と重複)

実施市町村

沿岸13市町村

関連事業

No.1 三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー
No.2 三陸防災復興シンポジウム2019
No.6 LINK SANRIKU 情報ステーション
No.7 いわて HAMA-MESHI プロジェクト

事業内容

三陸防災復興シンポジウム会場隣接地や沿岸13市町村の公共施設等で体験型展示会やパネル展示を実施する。

(1) 体験型展示会

① 実施時期及び場所

三陸防災復興シンポジウム会場隣接地で、シンポジウムと一体で実施

第1回 2019年6月 1 日(土)～ 6月 2 日(日) 釜石市民ホール

第2回 2019年6月 28日(金)～ 6月29日(土) 久慈市文化会館

第3回 2019年7月 19日(金)～ 7月 20日(土) 大船渡市民体育館

第4回 2019年7月 26日(金)～ 7月 27日(土) 宮古市市民交流センター

② 主な実施内容

- ・ 地震体験室を備えた県の防災指導車を活用した防災訓練や避難所運営疑似体験の実施
- ・ 関係機関の災害支援車両の展示
- ・ 民間企業の防災グッズ(非常食など)の展示

(2) パネル展示

① 実施時期及び場所

プロジェクト会期中、沿岸13市町村の公共施設などに常設

② パネル内容

- ・ 東日本大震災津波の被害状況や復旧の様子のパネル
 - ・ 復興支援でのつながりが実感できるパネル(復旧復興に関わった団体の活動の様子など)
- ※ 市町村の保有している資源を有効に活用しながら内容調整

期待される効果

- ・ 東日本大震災津波の記憶と教訓、復興に取り組む地域の姿が発信される。
- ・ 防災・減災に関する知識習得及び意識向上が図られ、地域における継続的な防災対策の取組につながる。
- ・ 災害支援団体等の活動理解と、関係団体の交流の促進が図られる。

今後の展開方向

- ・ 次期総合計画「長期ビジョン」(案)の三陸防災復興ゾーンプロジェクトに掲げる、東日本大震災津波の教訓や復興の姿の発信、復興ツーリズムの推進などによる、世界の防災力向上に貢献する取組を推進する。
- ・ 各種イベントでの防災・減災に関するブース出展や復興フォーラムの継続開催、各種広報媒体など重層的な情報発信により、日常における災害への備えの大切さを絶えず啓発する。
- ・ 公共施設や防災関連施設等での継続的な展示の実施により、東日本大震災津波の教訓を伝承していく。



※写真はイメージです。

No.14

さんりく文化芸術祭2019

実施時期 **2019年6月1日(土)～8月7日(水)**

実施場所

- (1)復興支援活動を行う芸術団体との連携企画:釜石市
- (2)地域の創作活動団体等による作品展示:沿岸13市町村

実施主体

主催:三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
企画・制作:Reborn-Art Festival※実行委員会
共催:開催地市町村、創作活動団体等(調整中)
後援:宮城県、石巻市(調整中)

※Reborn-Art Festival

宮城県石巻市を中心に行われる「アート」「音楽」「食」を楽しむ総合祭。震災後、東北再生に向けた新たな取組として2017年に第1回開催。地域資源に着目しながら新たな価値観や人との出会いなど10年後、20年後の未来づくりのきっかけが生まれることを目指している。

事業目的

復興に向けた動きの中で、地元住民に安らぎと勇気を与え、地域の絆を強める「復興の力」となった文化芸術活動に焦点をあて、作品の展示や復興支援のつながりを生かした演劇公演などを通じて三陸地域における新たな文化交流の機会を創出する。

ターゲット

オールターゲット(沿岸、内陸、全国、海外)
【集客目標】1,000人

実施市町村

沿岸13市町村

関連事業

No.6 LINK SANRIKU 情報ステーション

事業内容

芸術団体との協働連携によりオペラ演劇を上演するとともに、沿岸13市町村において、地域の創作活動団体等の文化芸術作品の展示発表の場を設ける。

(1)復興支援活動を行う芸術団体との連携企画

復興支援の想いを持ち活動を行う芸術団体主催のReborn-Art Festivalと連携し、「復興の力」となり得る新たな文化芸術活動として、同団体が制作する「宮沢賢治」をモチーフにしたオペラ演劇を上演する。

(2)地域の創作活動団体等による作品展示

地域の創作活動団体等の方々が制作した作品を情報発信拠点会場等に展示を行う。

期待される効果

- ・ 三陸地域における新たな文化芸術の鑑賞の機会が提供される。
- ・ 地域の創作活動団体の発表の場と新たな交流の機会が創出される。
- ・ 三陸地域と復興支援活動を行う芸術団体とのつながりの一層の深化が図られる。

今後の展開方向

- ・ 文化芸術活動に触れる機会や発表の場を設けていくことにより、三陸地域の文化芸術活動の振興を図る。



※写真はイメージです。

No.15

三陸プレミアムランチ列車

実施時期 **2019年6月15日(土)、
6月30日(日)、7月14日(日)**

実施場所 三陸鉄道全線

実施主体 主催:三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催:三陸鉄道株式会社(調整中)

事業目的 三陸鉄道において、三陸の食材を使用した有名シェフ監修のコース料理を提供する企画列車を運行することで、三陸の食の復興と魅力を発信する。

ターゲット オールターゲット(主として観光客)
【集客目標】100人

実施市町村 三陸鉄道沿線部の市町村

関連事業

- No.7 いわて HAMA-MESHI プロジェクト
- No.9 「美味えがすと三陸-Gastronomy SANRIKU構想-」推進プロジェクト
- No.16 三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」
- No.19 “復興の今”学習列車
- No.20 三陸お土産品プロモーション大作戦

事業内容

三陸鉄道の車窓から風光明媚な三陸の風景を眺めながら、三陸の魅力ある食材を使用した料理を堪能する企画列車。東日本大震災津波から復活を遂げたストーリーのある食材をはじめ、三陸ならではの魅力ある食材を積極的に使用する。

(1)三陸プレミアムランチ列車

復興支援や県産食材を積極的に活用いただいている有名シェフが監修したコース料理を提供する。食事を楽しんでいただきながら、三陸の食材や料理の紹介を行う。

① 南三陸コース

- ・ 運行日 2019年6月15日(土)
- ・ 運行区間 盛駅発・宮古駅着
- ・ 定員 40名(1両編成)

② 北三陸コース

- ・ 運行日 2019年7月14日(日)
- ・ 運行区間 久慈駅発・宮古駅着
- ・ 定員 40名(1両編成)

(2)三陸うほほ列車

北三陸の夏の食材、うに、ほや、ほたてを使用した地元料理を提供する、美味しくて「うほほ!」、お得で「うほほ!」な夏の北三陸を味わう企画列車を運行する。

- ・ 運行日 2019年6月30日(日)
- ・ 運行区間 久慈駅発・宮古駅着
- ・ 定員 40名(1両編成)

期待される効果

- ・ 三陸地域の豊かな食材や食文化に係る取組が発信される。
- ・ 有名シェフが監修した料理を提供することにより、新たな食の魅力の発信につながる。
- ・ 参加者の三陸地域における周遊につながる。
- ・ 三陸鉄道の魅力向上により利用の促進が図られる。

今後の展開方向

- ・ 次期総合計画「長期ビジョン」(案)の三陸防災復興ゾーンプロジェクトに掲げる、三陸の豊かな食材や食文化を活用したフードツーリズムの推進など、世界に誇れる食のまちを形成する取組を推進する。
- ・ 三陸鉄道と三陸の食・自然・体験を組み合わせた沿岸縦断型の食等をテーマにした高付加価値旅行商品の造成を促進する。

No.16

三陸鉄道一貫運行記念 「三陸縦断夜行列車」



※写真はイメージです。



実施時期 **2019年7月20日(土)～7月21日(日)、
7月27日(土)～7月28日(日)**

実施場所

三陸鉄道全線

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催：三陸鉄道株式会社（調整中）

事業目的

JR山田線（宮古・釜石間）の移管に伴い、日本一長い第三セクター鉄道となる三陸鉄道について、三陸を縦断する夜行列車というユニークな話題づくりにより注目度をさらに高め、報道やSNS等による取材・発信につなげ、国内外に向けて効果的にPRする。

ターゲット

全国の鉄道ファン
【集客目標】100人

実施市町村

三陸鉄道沿線部の市町村

関連事業

No.15 三陸プレミアムランチ列車
No.19 “復興の今”学習列車

事業内容

三陸鉄道の一貫運行の実現により開通するリアス線全線(盛・久慈間163キロ)を夜通し走る鉄道ファン向けの夜行列車を運行する。

夜行列車の運行

- ①運行区間:盛駅発(終電出発後) ⇒ 久慈駅着(翌朝)
- ②運行本数:2本(2019年7月20日(土)～7月21日(日)、
7月27日(土)～7月28日(日))
- ③定員:60名(2両編成)
- ④車内での催し例
 - ・ 盛駅での出発セレモニー
 - ・ 夜食の提供
 - ・ 駅舎等のライトアップ演出
 - ・ 大漁旗でのお出迎え(早朝)

期待される効果

- ・ ユニークな企画列車の実施により、日本一長い第三セクター鉄道となった三陸鉄道が報道やSNSを通じて広く情報発信され、認知度向上が図られる。
- ・ 三陸鉄道の魅力向上により利用の促進が図られる。

今後の展開方向

- ・ 三陸鉄道の認知度の向上により、三陸地域への国内外からの観光客等の誘客促進を図る。



※写真はイメージです。

No.17

さんりく絆スポーツフェスタ

実施時期 **2019年6月1日(土)～8月7日(水)**

実施場所

- (1) ラグビーワールドカップ2019™日本大会・釜石開催関連イベント：釜石市
- (2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連イベント：住田町、大槌町、山田町、岩泉町、洋野町
- (3) 著名人とのスポーツ交流イベント：宮古市、陸前高田市

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催：開催地市町村、ラグビーワールドカップ釜石開催実行委員会（調整中）
協力：公益財団法人日本オリンピック委員会（調整中）

事業目的

ラグビーワールドカップ2019™日本大会釜石開催や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と連携したスポーツイベント、復興支援活動等で三陸地域とつながりのある著名人と地元の子どもたちとの交流の機会を設定し、スポーツの力を通じた交流の拡大を促進する。

ターゲット

オールターゲット（沿岸、内陸、全国、海外）
【集客目標】16,500人

実施市町村

宮古市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、洋野町

関連事業

No.13 三陸防災復興展示会

事業内容**(1)ラグビーワールドカップ2019™日本大会・釜石開催関連イベント**

本プロジェクト会期中に釜石鵜住居復興スタジアムで開催予定のラグビーワールドカップ2019™のテストイベントと連動して、ラグビーワールドカップ釜石開催実行委員会との協働により、スタジアム周辺を活用した本プロジェクトや復興の取組状況の発信のほか関連するイベントを実施する。

(2)東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連イベント

東日本大震災津波発災後から復興支援を目的に開催されている「オリンピックデー・フェスタ」(被災地の方々とオリンピック、アスリートがスポーツプログラムを通じてふれあう交流イベント)の主催者である、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)と連携して実施する。

(3)著名人とのスポーツ交流イベント

「復興五輪」を理念に掲げる東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成のため、1964年東京オリンピック開催時に使用された旧聖火台の巡回展示を実施しながら、復興支援でつながりのある著名人とのスポーツ交流イベントを三陸で実施する。

期待される効果

- ・ 三陸地域の住民と有名スポーツ選手等との交流イベント等を実施することで、「夢・希望・憧れ」が醸成される。
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けた開催機運の醸成が図られる。
- ・ スポーツを通じた復興支援により生まれた、つながりのさらなる強化が図られる。

今後の展開方向

- ・ 次期総合計画「長期ビジョン」(案)の三陸防災復興ゾーンプロジェクトに掲げる、三陸の魅力的な自然環境を活用した、スポーツツーリズムの推進により交流の活性化を図る。



※写真はイメージです。

No.18

三陸応援団 元気お届けキャラバン

実施時期 **2019年6月1日(土)～8月7日(水)**

実施場所

沿岸市町村の地域コミュニティにおける集会所等

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
協力：開催地市町村（調整中）

事業目的

暮らしの再建途上にある沿岸エリアの住民の方々を対象とし、元気、笑顔を届ける交流の場を作ることとを目的としたキャラバンを実施することにより、コミュニティ形成に資することを狙いとする。

また、復興支援活動を行っている著名人等にもキャラバンに加わっていただくことで、復興支援のつながりをさらに深めることも狙いとする。

ターゲット

災害公営住宅等の住民
【来場目標】 600人

実施市町村

宮古市、大船渡市、陸前高田市、釜石市、大槌町、山田町、岩泉町、野田村

関連事業

事業内容

災害公営住宅の自治会やコミュニティ形成支援に携わっている方々、市町村等のニーズを把握しながら、復興支援活動を行っている著名人等にもキャラバンに加わっていただき、主に集会所や地域交流施設等を訪問し、地域の住民の方々に元気、笑顔を届けるとともに、コミュニティ形成に資する活動を行う。

(1) 元気お届けキャラバン

災害公営住宅自治会等のニーズに沿ったキャラバン活動を実施する。

【キャラバン例】

- ・ 復興支援活動を行っている著名人によるライブ等
- ・ 住民が集まる地域活動への参加

(2) 著名人等による三陸地域のPR

本事業を中心に本プロジェクトに関わっていただく著名人等に対し、三陸の応援という趣旨でメディアやSNS等を通じて復興の今や三陸の多様な魅力を情報発信していただくよう協力を依頼する。

期待される効果

- ・ 交流の場づくりのきっかけとすることで、コミュニティ形成の促進や活性化が図られる。
- ・ 復興支援を続けている著名人により、本プロジェクトを全国に発信することを通じて県内・全国に向けて三陸地域に対する関心が喚起される。
- ・ 復興支援を契機として生まれたつながりの一層の深化が図られる。

今後の展開方向

- ・ 災害公営住宅などの新たな住環境における交流機会の拡大など、コミュニティの形成支援とその活性化に向けた取組を促進する。



※写真はイメージです。

No.19

“復興の今”学習列車

実施時期 **2019年6月8日(土)、7月6日(土)**

実施場所

三陸鉄道全線(久慈～田野畑、盛～釜石、宮古～釜石)(調整中)

実施主体

主催:三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催:三陸鉄道株式会社(調整中)

事業目的

三陸鉄道を活用した震災学習を行い、震災の経験・記憶を次世代に継承し、防災力の向上に努めるため、三陸鉄道が北リアス線と南リアス線で実施してきた震災学習列車の内容を拡充するとともに、移管されるJR山田線(宮古・釜石間)においても震災学習列車を運行する。

車内での語りに加え、復興の今を車外においても体感する企画とするとともに、個人客の受け入れも図ることにより、幅広い層に復興の今を見ていただく機会を増やす。

ターゲット

震災学習を希望する団体及び個人
【集客目標】120人

実施市町村

三陸鉄道沿線部の市町村

関連事業

No.15 三陸プレミアムランチ列車
No.16 三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」
No.21 いわて三陸学びの旅

事業内容

(1) 新区間の震災学習列車

① 運行区間等

- ・ 運行区間:宮古～釜石間(JR山田線区間)
- ・ 運行本数:2本(2019年6月8日(土)、7月6日(土))
- ・ 定員:40名(1両編成)
- ・ 受入れ客:個人客・団体客

② 学習内容例

- ・ 既存の震災学習列車の内容
- ・ 復興インフラツーリズム(防潮堤の堰堤等)
- ・ 避難体験 等

(2) 既存の震災学習列車の拡充

① 現状の運行

- ・ 運行区間:久慈～田野畑、盛～釜石
- ・ 受入れ客:団体客
- ・ ガイド:三陸鉄道社員
- ・ 学習方法:列車内での説明及び被災が見える場所で列車を一旦停止や徐行運転
- ・ 所要時間:1～2時間程度

② 拡充内容例

- ・ 復興に取り組む団体や被災から復旧・再生した地元企業の語りを聞く等

期待される効果

- ・ 企画列車を通じた「復興の今」を発信することにより、震災の風化防止が図られる。
- ・ 企画列車の実施により、三陸鉄道の利用客数の増加が図られる。

今後の展開方向

- ・ 震災の経験や記憶を次世代に継承し、国内外の防災力の向上に貢献する取組を推進する。



※写真はイメージです。

No.20

三陸お土産品 プロモーション大作戦

実施時期 **2019年6月1日(土)～8月7日(水)**

実施場所

- (1)沿岸13市町村の事業者施設
 - (2)JR駅、全国の主要百貨店で開催される物産展
- ※(2)については、各社の販売規定や条件を満たしたもののみ。

実施主体

主催:三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
共催:沿岸13市町村(調整中)

事業目的

本プロジェクトや、ラグビーワールドカップ2019™日本大会の釜石開催を大きなビジネスチャンスと捉え、三陸ならではの地域資源やストーリーを生かして、売れる商品づくりに取り組む地元事業者の加工食品や工芸品等を、プロジェクト会期中にお土産品として多くの来訪者にお買い求めいただけるよう販売促進に取り組むとともに、会期後を見据えた地元事業者の新たな販路開拓を支援する。

ターゲット

オールターゲット(主に観光客、製造・販売に係る沿岸地域の事業者等)

実施市町村

沿岸13市町村

関連事業

- No.7 いわて HAMA-MESHI プロジェクト
- No.9 「美味えがすと三陸ーGastronomy SANRIKUー構想」推進プロジェクト

事業内容

各種コンクール等との連携を図りながら、三陸のPRに資する地場産品（食品、工芸品等）について「オフィシャルお土産品」として認定し、商品の販売促進及び首都圏等への販路拡大を図る。

(1) オフィシャルお土産品の認定

県産の食材等を用いた三陸のPRに資するお土産品を認定する。

① 各種コンクールとの連携による認定

岩手うんめえ〜もん!!グランプリや、いわて特産品コンクール、岩手県水産加工品コンクール等の各種コンクールでの特別賞受賞商品及び出品商品の中から推薦された商品

② 沿岸13市町村の推薦による認定

各市町村1商品を目安に推薦された商品

③ 三陸鉄道のお土産品のプロモーション

一貫運行を契機とした三陸鉄道のさらなるPRを図ることを目的とし、新たに開発された三陸鉄道のお土産品のプロモーション支援を行う。

(2) 販路開拓支援

商品の一部は、会期中や会期後も継続した販売を見据え、首都圏等で開催される岩手県の物産展等イベントに出品の機会を設け、改良や販売へつなげるための機会を創出する。

(3) 周知用ツールの作成

オフィシャルお土産品の周知用ツールとして認定シールを作成し、商品に貼付するほか、「いわてHAMA-MESHIプロジェクト」登録店舗とともに食の公式ガイドブックや公式ホームページに掲載し情報発信を行う。

期待される効果

- ・ 三陸地域の地場産品の販路拡大及び販売促進が図られる。
- ・ 首都圏等における食や土産品の情報発信により三陸の魅力の認知度が向上する。

今後の展開方向

- ・ 次期総合計画「長期ビジョン」(案)の三陸防災復興ゾーンプロジェクトに掲げる、三陸の豊かな資源を活用した、世界に誇れる食のまちを形成する取組を推進する。
- ・ 地域企業の継続的な販路拡大と事業展開を支援する。



※写真はイメージです。

No.21

いわて三陸学びの旅

実施
時期

2019年1月～3月

(旅行商品の販売・予約受付)

2019年6月～8月

(旅行エージェント招請)

実施場所

沿岸13市町村

実施主体

主催:いわて観光キャンペーン推進協議会
共催:三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会
協力:三陸DMOセンター

事業目的

「復興の今を学ぶ」、「三陸の豊かな地域資源を学ぶ」をテーマに、全国各地からの旅行者を対象とした旅行商品を造成し、岩手三陸地域への来訪促進を図る。また、本事業で造成した旅行商品をきっかけとしたお客様受入・対応の経験を生かし、プロジェクト会期後も将来にわたる来訪が期待できる旅行商品としての磨き上げを図る。

ターゲット

全国からの旅行者
【集客目標】1,000人泊

実施市町村

沿岸13市町村

関連事業

No.19 “復興の今”学習列車

事業内容

復興や三陸の様々な魅力を組み合わせた旅行商品を造成し、三陸地域への来訪を図るとともに、旅行エージェントを招請し、旅行商品の販売を促進するとともに磨き上げも行う。

(1)旅行商品造成へ向けた商品素材集約・整備・開発

- ①三陸地域の各団体と調整を行い、旅行商品の素材を選定・集約する。
- ②集約した素材をもとに旅行商品を造成する。

(2)旅行商品の周知・販売促進

「復興の今を学ぶ」、「三陸の豊かな地域資源を学ぶ」をテーマとした旅行商品を造成し、教育旅行等での活用を目指すほか、販売促進のため、パンフレットやWEBサイト等を活用し情報発信を行う。

(3)商品の魅力発信(旅行エージェント招請の実施)

プロジェクト会期中に、旅行エージェントの招請を実施する。

販売促進へ向けた商品の紹介のみならず、誘客側の様々な立場からの意見を地域内事業者へフィードバックすることで、商品の磨き上げも行う。

(4)関係機関との連携

関係機関と連携し、教育旅行等のプログラムでの活用を目指すほか、造成した商品を包含しながらさらに周遊してもらう仕掛けづくりを行っていく。

また、情報発信においては関係機関が実施する各種キャンペーンを有効に活用できるよう働きかけを行う。

期待される効果

- ・ 三陸地域を中心とした県全域への誘客や周遊促進が図られる。
- ・ 旅行商品造成や観光客の受入を通じて、地域の受入態勢の強化が図られる。

今後の展開方向

- ・ 三陸の地域資源を生かしたコンテンツの磨き上げ、売込み及び情報発信により、教育旅行等の誘致を図るとともに、沿岸における周遊型旅行商品や、高付加価値型の旅行商品造成を促進する。
- ・ 三陸DMOセンターや、地域の観光づくりを行う団体等との連携の推進により、さらなるコンテンツの発掘、磨き上げ及び売込みを図る。



※写真はイメージです。

No.22

いわて三陸ドライブツーリズム

実施時期 **2019年6月～8月**

実施場所

沿岸13市町村を中心とした岩手県全域

実施主体

主催：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会

事業目的

三陸沿岸道路等（復興道路及び復興支援道路）開通の契機を生かし、ドライブしながら県内を周遊する仕組みを構築し、三陸地域のみならず、県内全域の周遊・消費の拡大を促す。

ターゲット

オールターゲット（主にレンタカー利用者）
【集客目標】16,000人

実施市町村

沿岸13市町村

関連事業

No.6 LINK SANRIKU 情報ステーション
No.7 いわて HAMA-MESHI プロジェクト

事業内容

クーポンやスタンプラリー等を活用し、三陸沿岸を中心に県内全域を周遊する仕組みを構築する。また、国内観光客だけでなく、インバウンドに向けた取組も実施する。

(1) 周遊促進の仕組み構築

クーポンやスタンプラリーを活用した周遊キャンペーンを開催し、LINK SANRIKU 情報ステーションや観光施設等を周遊する仕組みを構築する。

(2) モデルルートの構築

構築した周遊促進の仕組みを活用して周遊するモデルコースを構築し、ドライブマップやホームページで周知する。

(3) 外国人向け事業

台湾のメディア等の招請事業による実証実験を実施する。

期待される効果

- ・ インバウンドを含めた観光客のレンタカー利用により交流人口の拡大が図られる。
- ・ ドライブ周遊の仕組みの構築による相乗効果で、「LINK SANRIKU 情報ステーション」や「いわて HAMA-MESHI プロジェクト」等の本プロジェクトの各事業の利用者拡大が図られる。

今後の展開方向

- ・ 新たな交通ネットワークの活用により、県内をより広く周遊し、より長く滞在する旅行商品造成を促進する。
- ・ 周遊する観光客に対し、岩手の魅力発信への参画を促すことにより、さらなる交流人口の拡大を図る。

6 参加・協働・連携の推進

2016 年に開催した希望郷いわて国体・希望郷いわて大会での県民運動のレガシーを継承し、NPO やコミュニティ団体、企業、地域、学校等との連携を図りながら、三陸防災復興プロジェクト 2019（以下、「本プロジェクト」という。）の各事業を展開していきます。

そのために、沿岸部の 13 市町村の住民をはじめとした岩手県民、県内外の復興支援者や、経済・観光・交通・報道等の関係団体や企業など多くの参画を募るとともに、岩手県内市町村、国の関係機関及び岩手県が実施する取組とも関連づけながら実施することにより、それぞれの取組が相乗効果を発揮し、復興の推進や三陸地域の活性化につながるよう進めていきます。

(1) 沿岸市町村の住民をはじめとする岩手県民の参加

- ① 本開催の前年度である 2018 年度には、県民の参加意識の盛り上げを図るため、イベントを開催するとともに、各種イベントや祭り等の機会を積極的に活用し、機運醸成や開催周知を行っていきます。
- ② 事業運営のボランティアへの参画、国内外からの復興への支援に対する感謝の気持ちを表すイベントへの参加、本プロジェクトの事業等に訪れる観光客の歓迎など、沿岸部の 13 市町村の住民をはじめとする多くの県民が参加できるよう、展開していきます。
- ③ 若者に様々な形でプロジェクトに参画してもらうことは、レガシーを受け継いでもらうために大変重要と考えており、より多くの若者に事業への出演や観覧をしていただくとともに、ボランティアとして事業の運営に関わってもらう取組も進めていきます。

【実行委員会イベントへの参画の例】

運営等ボランティアとしての参加・・・事業全般

おもてなし拠点としての参加・・・No.7 いわて HAMA-MESHI プロジェクト

植栽、制作活動への参加・・・・・・No.8 三陸ステーションガーデンプロジェクト、
No.10 ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」

地元高校生や親子の体験参加・・・・・・No.11 三陸ジオパーク ワクワクフェスタ

No.17 さんりく絆スポーツフェスタ

【若者のプロジェクト参画の例】

- ・復興教育の一環として、「三陸防災復興シンポジウム 2019」や「三陸防災復興展示会」等への参加、防災学習成果や復興支援活動の発表
- ・各事業において、文化・芸術など日頃の活動成果の発表
- ・ホタテモザイクアート事業における釜石市内の小中学生の参画
- ・産業教育の一環として、独自開発や事業者等と共同開発した商品のPR販売
- ・運営等ボランティアとしての参加

(2) 団体、企業との協働

- ① 団体や企業が持つ知見やネットワークと協働することにより、本プロジェクトで実施する事業のさらなる展開が図られるものについては、積極的に関係団体との共同実施に向けて調整を行っていきます。
- ② 各団体や企業が実施する企画であって、本プロジェクトの趣旨に合致又は本プロジェクトに関連づけて実施するイベント等を募集し、実行委員会が一元的に広報を行うことにより、全県的な盛り上がりを図っていきます。
- ③ 本プロジェクトの趣旨に賛同する団体や企業に、準備・運営に必要な協賛金や協賛物品などの支援に協力していただくため、下記のような枠組みを設けます。

【協賛の種類及び主な特典】

種 類			主な特典
1	プロジェクトパートナー	①300 万円以上の協賛金を提供する企業・団体 ②300 万円相当額以上の役務・物品等を提供する企業・団体 ③本プロジェクト事業を協働して実施する企業・団体	①「プロジェクトパートナー」呼称使用权 ②プロジェクト名称等の広告使用权及びマーチャンダイジング権 ③公式ウェブサイト等への企業・団体名の掲出及びリンク設定 ④中核となる事業における PR 看板等への企業・団体名の掲出 ⑤各種広報媒体への広告 ⑥中核となる事業におけるPRブース出展権
2	オフィシャルスポンサー	①100 万円以上 300 万円未満の協賛金を提供する企業・団体 ②100 万円相当額以上の役務・物品等を提供する企業・団体	①「オフィシャルスポンサー」呼称使用权 ②プロジェクト名称等の広告使用权及びマーチャンダイジング権 ③公式ウェブサイト等への企業・団体名の掲出及びリンク設定 ④各種広報媒体への広告
3	プロジェクト支援企業	①5 万円以上 100 万円未満の協賛金を提供する企業・団体 ②5 万円相当額以上の役務・物品等を提供する企業・団体	①「プロジェクト支援企業」呼称使用权 ②プロジェクト名称等の広告使用权及びマーチャンダイジング権 ③公式ウェブサイト等への企業・団体名の掲出

(3) NPO、コミュニティ団体、地域、学校等との連携

- ① 地域や学校単位等での事業運営のボランティアへの参画、国内外からの復興への支援に対する感謝の気持ちを表すイベントへの参加、本プロジェクトの事業等に訪れる観光客の歓迎など、NPOやコミュニティ団体、地域、学校等と連携を図りながら展開していきます。
- ② 郷土芸能の上演、地域の食の振る舞いや特産品の販売など、観光客等が事業を通じて岩手・三陸の魅力に触れる機会とともに、地域住民等との多くの出会いと交流の場を設け、岩手・三陸ファンを拡大するために、NPO、コミュニティ団体、地域、学校等との連携を進めていきます。

【実行委員会イベントへの参画の例】

運営等ボランティアとしての参加・・・事業全般

企画アトラクションへの出演・・・No.1・5 オープニング・クロージングセレモニー、
No.3 オールいわて・祭りイベント、
No.4 さんりく音楽祭 2019

植栽、制作活動への参加・・・・・・No.8 三陸ステーションガーデンプロジェクト、
No.10 ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」

(4) 市町村、国の関係機関、県との連携

① 市町村

- ア 実行委員会実施事業の会場地においては、実行委員会構成員としての事業への参画や、それぞれの市町村において例年行われている夏祭りなどの様々なイベントを含め、地域の特徴に応じて実施されるイベント等と本プロジェクトとの連携が図られるよう、調整を進めていきます。
- イ 本プロジェクトの事業の開催を機に、復旧・復興事業への他自治体からの応援職員やボランティアとの交流会を各市町村で実施できるよう、実行委員会と市町村との間で調整を進めていきます。
- ウ 内陸部の市町村とも連携した取組を進めていきます。なお、内陸市町村には、次の役割を期待しており、今後具体的に調整を進めていきます。
- ・内陸部市町村職員の各事業への参加や、文化芸術団体等の事業への参加支援など、本プロジェクトへの積極的参加
 - ・シンポジウムやセミナー、内陸地域の避難者等の本プロジェクト事業への参加支援や、交流会の開催の実施など本プロジェクトの趣旨に沿った事業の実施
 - ・各市町村におけるイベント等の情報発信に併せた三陸地域関係の情報発信
 - ・沿岸市町村と連携した交流人口の拡大に向けた取組
- エ なお、市町村が本プロジェクトの趣旨に沿った自主事業等を実施する場合にあっては、市町村の負担が過大にならないよう、県と連携し、市町村の負担軽減に取り組めます。

② 国の関係機関

- ア 国の各機関が持つ知見やネットワークと協働することにより、本プロジェクト事業のさらなる展開が図られるものについては、積極的に国の関係機関との共同実施や連携が図られるよう調整を進めていきます。
- イ 国の各機関が行う防災や復興、新たな三陸の創造に資する観光振興や地域振興に関連するイベントや事業等にあつて、本プロジェクトの目的に資する事業等については、積極的に国の関係機関との共同実施や連携が図られるよう調整を進めていきます。また、本プロジェクトを通じて新たな三陸の創造に資する取組については、国に対する事業提案などを通じて、本プロジェクトへの支援を要請していきます。

③ 県

- ア 県が行う防災や復興に関連するシンポジウムやセミナーとの共同実施や連携、現場見学会などによる復興の現状の発信活動との連携等を図り、防災や復興に対する風化防止や理解が深まるよう事業間の調整を進めていきます。
- イ 県が行う新たな三陸の創造に資する観光振興や地域振興に関連するイベントや事業等については、2018年度にあつては、機運醸成活動として、2019年度にあつては、本プロジェクトとの共同実施や連携を図るよう調整を進めていきます。
- ウ 県が実施又は支援する震災学習、教育旅行に係る商品については、本プロジェクトで造成する商品との連携を進め、誘客促進につなげていきます。
- また、食やお土産品に係る新たな特産品開発については、事業の中での販売につなげるよう調整を進めていきます。
- 併せて、事業の中でプロモーションを強化することで、三陸の食や特産品をまるごと売り込んでいきます。

【連携が想定される県事業の例】

- ※ 県における事業内容の検討と、実行委員会と県との間での調整により具体的内容を決定することから、連携内容の変更があり得る。
- (a) 震災からの歩みと将来に向けた備えに係る取組
展示型防災訓練、県土（まち）づくりに関するシンポジウム、いわて復興未来塾、復興の現場見学会
- (b) 三陸の豊かな資源を生かした新たな魅力の創造に係る取組
三陸の観光地域づくり推進事業、三陸ジオパークフォーラム、三陸鉄道を活用した企画列車の運行支援、復興ツーリズム推進事業
- (c) 地域の連携によるにぎわいの創出
（仮称）いわてファンスタンプラリー、食や観光に関連する各種イベント、音楽関係イベント

7 広報計画

(1) 広報実施の考え方

復興に力強く取り組む地域の姿や復興への支援に対する感謝、東日本大震災津波の事実と教訓を国内外に伝えるとともに、岩手・三陸地域で育まれた魅力的な地域資源を広く伝えていくため、次に掲げる情報発信に当たって重視する視点を踏まえながら、広報と宣伝の両輪をバランスよく戦略的に活用し、県民の機運醸成や参加意欲の向上及び国内外への関心を高め、三陸地域を中心とした岩手県への誘客を促進していきます。

また、三陸防災復興プロジェクト 2019 の成果を一過性のイベントにすることなく、三陸地域にその成果を根付かせるため、協働により築かれた「つながり」を生かした継続的な情報発信に努めます。

■情報発信に当たって重視する視点

【テーマ訴求とメッセージ性に富んだ情報発信】

○開催意義や目的が、県内をはじめ国内外に的確に浸透するように継続的な広報宣伝活動を実施する。

○岩手・三陸地域で育まれてきた魅力的な地域資源や、後世に引き継ぐべき貴重な教訓を確実に伝えるために、きめ細かな情報発信に努める。

【県民との協働による情報発信】

○市町村及び県と、関係機関・団体、企業、NPO、ボランティア等が協働し、積極的な情報発信に努める。

【集客に向けた戦略的な情報発信】

○広く国内外からの集客に資するよう、報道機関との連携や多様なメディアの活用等により、開催時期や場所、内容等に応じて計画的かつ効果的な発信を行う。

【成果の持続に向けた情報発信】

○三陸防災復興プロジェクト 2019 の成果を一過性のものとせず、三陸地域にその成果を根付かせるため、協働でのプロジェクト実施により築かれたネットワークを生かし、会期後も継続的な情報発信に努める。

(2) 展開の方向性～戦略的かつ効果的な広報と宣伝に向けて～

① 段階的な情報の発信

県民の機運醸成や参加意欲の向上及び国内外への関心を高めるため、三陸防災復興プロジェクト 2019 の各事業の開催時期や場所、内容等に応じて計画的かつ効率的に情報を発信していきます。

また、2018 年度において県内外で行われるイベントを活用した周知活動のほか、会期直前にも集客促進につなげる効果的な情報発信に努めていきます。

② 情報の質と量のバランスよい発信

実行委員会が行う各事業、市町村や協賛・協力団体による関連企画等のイベント情報や、三陸地域の食や観光地などの多様な魅力について、関係企業・団体・メディア等（B to B）向けと、県民や国内外の消費者（B to C）向けで発信するものを分け、適切なタイミングで広報と宣伝を実施していきます。

■ 広報・宣伝の展開イメージ

1 県民の機運醸成施策

【広報・宣伝の主な内容】

- ・プロジェクトの開催趣旨（意義、目的）
- ・開催概要（名称、会期、会場、主な内容）

【対象】

- ・岩手県内

A) プレスリリースのメディアニュース化

B) ホームページと SNS

C) 広報誌

D) WEB 動画

E) 各種 PR ツール製作（多言語含む）

F) テレビスポット

G) ラジオスポット

H) 新聞広告

2 参画意欲向上施策

【広報・宣伝の主な内容】

- ・プロジェクトの開催趣旨（意義、目的）
- ・開催概要（名称、会期、会場、主な内容）
- ・参画を求める事業情報

【対象】

- ・岩手県内、県外関係者

A) プレスリリースのメディアニュース化

B) ホームページと SNS

C) 広報誌

D) WEB 動画

E) 各種 PR ツール製作（多言語含む）

F) テレビスポット

G) ラジオスポット

H) 新聞広告

3 誘客施策

【広報・宣伝の主な内容】

- ・事業を中心とした総合的なプロジェクトの情報発信
- ・三陸地域の多様な魅力の発信
- ・プロジェクト終了後のイベント情報

【対象】

- ・岩手県内、国内外

B) ホームページと SNS

D) WEB 動画

E) 各種 PR ツール製作（多言語含む）

I) ニュースサイトへの配信

J) 首都圏等交通広告

K) 各種イベント出展

(3) 広報手段の種別ごとの広報・宣伝の実施

広報・宣伝の対象エリアやターゲット（BtoB、BtoC）を意識しながら、次の種別に基づき広報宣伝を実施していきます。

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
A	プレスリリースによるメディアでのニュース化	【県民の機運醸成】【参画意欲向上】 岩手県内、県外関係者	2018年4月から 2019年8月まで
	実施内容		
	①時期別の重点実施事項 (ア)2018年4月～12月 ・事業趣旨等の県内メディアへのプレスリリース等によるニュース化 ・岩手県東京事務所等県外機関と連携した県外メディアへの情報発信 ・プレイベント（県内8月、首都圏9月）の発信に併せた2019年イベントの情報発信 (イ)2019年1月～5月 ・各事業情報等の発信による県内、県外メディアでのニュース化 (ウ)2019年6月～8月 ・開幕のお知らせや、事業別の開催案内、結果報告等による県内、県外メディアでのニュース化 ②随時実施事項 ・開催趣旨、実施時期、開催内容等の県内外メディアへの切れ目ない情報発信		

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
B	ホームページとSNS	【県民の機運醸成】【参画意欲向上】 【誘客】岩手県内、国内外	2018年7月から 2019年9月まで
	実施内容		
	①ホームページ (ア)2018年7月20日：公式ホームページ開設 (https://sanriku2019.jp/) （発信情報：開催にあたって、開催概要、事業案内、復興の取組状況、三陸沿岸地域へのアクセス） (イ)2018年10月以降：発信情報の拡充 （拡充事項：事業別の事業概要、復旧・復興の記憶、観光情報） (ウ)2019年1月～8月：参加機運醸成や来場促進に向けた情報拡充 (エ)2019年6月～8月：事業実施情報、実施結果の集中発信 ②SNS (ア)2018年7月20日：Facebook、Twitter開設。SNSによる情報発信開始 (イ)事業情報のほか、沿岸市町村のイベント、食や景観の魅力を発信		

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
C	広報誌	【県民の機運醸成】【参画意欲向上】 岩手県内、県外関係者	2018 年 4 月から 2019 年 8 月まで
	実施内容		
	○岩手県広報誌「いわてグラフ」のほか、沿岸・内陸市町村との連携による市町村広報誌への掲載により、開催趣旨、各事業の詳細や参加者募集等の周知拡大。		

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
D	ウェブ動画	【県民の機運醸成】【参画意欲向上】 【誘客】 岩手県内、国内外	2018 年 3 月から 2019 年 8 月まで
	実施内容		
	①三陸防災復興プロジェクト 2019 の認知拡大と誘客促進に向けた動画の制作。 ②制作に当たっての方向性 (ア) 三陸防災復興プロジェクト 2019 公式ホームページでの公開及び SNS での発信を想定した内容とする。 (イ) ストーリー性を重視するとともに、機運醸成、来場促進の各段階に応じた発信につながるようシリーズ化を図る。 (ウ) 東日本大震災津波からの復旧・復興に当たっても岩手県を応援していただいた著名人等の起用を検討する。 (エ) 三陸地域のヒト（被災者＝復興者）、コト、モノを舞台とする共感型の動画とするとともに、会期後においても、地域活性化につながるよう内容を目指す。 ③制作計画 (ア) 2018 年 3 月：第 1 弾イメージ動画（プロジェクト趣旨） (イ) 2018 年 9 月：第 2 弾イメージ動画（つながりの力と地元の底力で復興に歩んでいる三陸地域の姿） (ウ) 2018 年 10 月以降：著名人からのメッセージ動画 (エ) 2019 年 1 月以降：三陸地域のヒト、コト、モノを中心とした誘客メッセージ動画		

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
E	各種 PR ツール製作 （多言語含む）	【県民の機運醸成】【参画意欲向上】 【誘客】 岩手県内、国内外	2018 年 4 月から 2019 年 8 月まで
	実施内容		
	①事業趣旨、参加募集、誘客等を目的とした各種 P R ツールの製作。 (ア) ポスター（B 2 判 2 種程度、交通広告 B 1 判 2 種程度） (イ) チラシ（A 4 判 2 種程度） (ウ) パンフレット（A 3 両面・二つ折り） (エ) のぼり旗 ※(イ) 及び(ウ)については、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語の翻訳も含む。 ②機運醸成を図るためのカウントダウンボードの設置。		

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
F	テレビスポット	【県民の機運醸成】【参画意欲向上】 岩手県内、県外（隣県）	2018年9月から 2019年7月まで
	実施内容		
	①岩手県内テレビ各局の協力のもと、各事業への参画や集客を目的としたテレビスポットの効果的活用を行う。 ②集中発信時期 (ア)2018年9月 : 15秒スポットCM（名称、会期、主要事業の周知） (イ)2019年5～7月：スポットCM（開催告知、事業紹介）		

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
G	ラジオスポット	【県民の機運醸成】【参画意欲向上】 岩手県内、県外（隣県）関係者向け	2018年7月から 2019年8月まで
	実施内容		
	①岩手県内ラジオ各局の協力のもと、各事業への参画及び集客を目的としたラジオスポットの効果的活用を行う。 ②集中発信時期 (ア)2018年7月 : イベント告知（県内プレイベント開催、観覧者募集） (イ)2019年5～7月：スポットCM（開催告示、事業紹介）		

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
H	新聞広告	【県民の機運醸成】【参画意欲向上】 岩手県内、県外（隣県）	2018年9月から 2019年8月まで
	実施内容		
	①新聞各社の協力のもと、各事業への参画及び集客を目的とした新聞広告の展開を図る。 ②集中発信時期 (ア)2018年9月 : プロジェクト趣旨（岩手日報、東海新報、復興釜石新聞） (イ)2019年3月 : 事業概要告知 (ウ)2019年5月以降：事業案内、アクセス、観覧者募集等		

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
I	ニュースリリースサイトを 活用した情報配信	【誘客】 岩手県内、国内外	2018年7月から 2019年8月まで
	実施内容		
	①事業趣旨・各事業内容等を、インターネットリリース配信システムを活用し、情報発信を行うことにより、新聞、WEBサイトでの掲載につなげる。 ②発信時期（予定） (ア)プレイベント情報：2018年7月（県内プレイベント）、2018年9月（首都圏イベント） (イ)著名人メッセージ動画配信時期に併せたプロジェクト情報発信 (ウ)2019年5月以降：事業案内、アクセス、観覧者募集等		

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
J	交通広告	【誘客】 県内外	2018 年 9 月から 2019 年 7 月まで
	実施内容		
	①首都圏の交通広告の実施 (例) J R 東日本首都圏管内の駅又は車両でのポスター掲出や動画放映の実現に向けた働きかけの実施。 ②県内交通機関での交通広告の実施 県内を運行する鉄道、バス会社の協力のもとでのポスター掲出の実現に向けた働きかけの実施。 (ア)2018 年 9 ～11 月：名称、会期、主要事業の周知 (イ)2019 年 3 ～4 月：事業概要告知 (ウ)2019 年 5 月以降：事業案内、アクセス、観覧者募集等		

	種別	テーマ・ターゲット	実施時期
K	誘客促進に資する 各種イベント出展等	【誘客】 県内外旅行者	2018 年 9 月から 2019 年 7 月まで
	実施内容		
	①誘客促進に資するイベントへ出展し、事業の告知に加えて誘客促進に繋がる旅行造成を促す。 [出展イベント] 2018 年 9 月：[県外向けプレイベント]ツーリズム E X P O ジャパン（東京都） エージェント向けの旅行商品説明、メディア向けの情報発信 ②県や市町村等と連携し、これらの者が実施又は出展するイベント会場内での情報発信を行う。 ③海外への情報発信やインバウンド対応のため、海外メディアやエージェントを招請し、ツアーを実施する。		

(4) SNS の運用

岩手とつながっている人たちのネットワークを生かした情報の共有による話題の拡散を通じて、三陸防災復興プロジェクト 2019 への来場促進を目指し、SNS を活用した情報発信を行います。

なお、運用に当たっては、総務省公式 SNS 運用方針等に準拠します。

※総務省公式 SNS 運用方針

http://www.soumu.go.jp/menu_kyotsuu/policy/snspolicy.html

① 運用イメージ

■ターゲット

岩手県内、県外関係者、国外向け
→岩手とのつながり
→旅やグルメに興味
→類似イベントに興味

■役割

県民の機運醸成、参画意欲向上、誘客
→認知獲得につながる情報発信、拡散
→WEB サイトへの誘引
→ユーザーの口コミ拡散
→行動喚起へのモチベーション向上

■SNS 運用の目標■

- ・ 岩手とのつながりを活かした情報の共有による話題化
- ・ 来場者の増員

② 各 SNS の特徴と運用について

それぞれの SNS の特長を鑑みた運用を行っていきます。

- Facebook は、SNS のメインメディアとして活用する。
- Twitter は、情報の拡散性を活かした活用を行う。
- Instagram は、フォトジェニックを好むユーザーの旅行に対するモチベーション向上に資するよう活用する。

【各 SNS の特徴と投稿予定内容】

	メリット	デメリット	投稿予定内容
Facebook	・ 長文での投稿が可能 ・ ユーザーのアクションが各フォロワーに拡散される（いいね、コメント、シェア） ・ 実名主義により、情報の信頼性が高い ・ ターゲットを絞りやすい	・ 情報発信の頻度が低下すると関心が薄れやすい（エンゲージメント率の低下）	・ 事業趣旨 ・ 各事業の情報全般 ・ 岩手三陸の観光資源情報

	メリット	デメリット	投稿予定内容
Twitter	・コメント、お気に入り、リツイートなど拡散性が高い ・リアルタイム性が高い	・発信できる文字数に限りがある ・匿名性（個人を特定しにくい）	・ホームページサイト更新情報 ・ユーザーが参加しやすい、問いかけ型の投稿 ・当日の各事業の状況やお知らせ
Instagram	・#（ハッシュタグ）を活用することで様々な興味関心を持つユーザーとの接触が可能となる。 ・旅行との相性が良い	・写真メインの訴求になる ・Facebook や Twitter に比較して拡散性が低い ・投稿内に URL のリンクが設置できない	・ホームページサイト更新情報 ・各事業の情報全般 ・岩手三陸の観光資源情報

8 交通輸送、宿泊及び警備安全に係る対応

(1) 交通輸送の対応について

① 基本的な考え方

三陸防災復興プロジェクト 2019 では、復興道路や宮古・室蘭間のフェリー航路、三陸鉄道などの新たな交通ネットワークの効果的な情報発信により、交流人口の拡大を図るとともに、更なる誘客促進のため、円滑な交通輸送と利便性向上に努めます。

② 交通網の整備状況

東日本大震災津波以降、三陸地域では新たな交通ネットワークが発達し、岩手県内はもとより、全国各地との距離がますます近づいています。

ア 三陸鉄道の一貫運行

三陸鉄道は、J R 東日本から J R 山田線（宮古・釜石間）の移管を受け、2019 年 3 月 23 日、盛駅（大船渡市）から久慈駅までの 1 6 3 k m が三陸鉄道リアス線として一つにつながり、第三セクター鉄道^{※1}として、全国一長い鉄道が誕生します。

イ フェリー航路の開設

2018 年 6 月 22 日、北海道室蘭市と宮古市を結ぶフェリー航路が開設し、「海の道」が誕生しました。

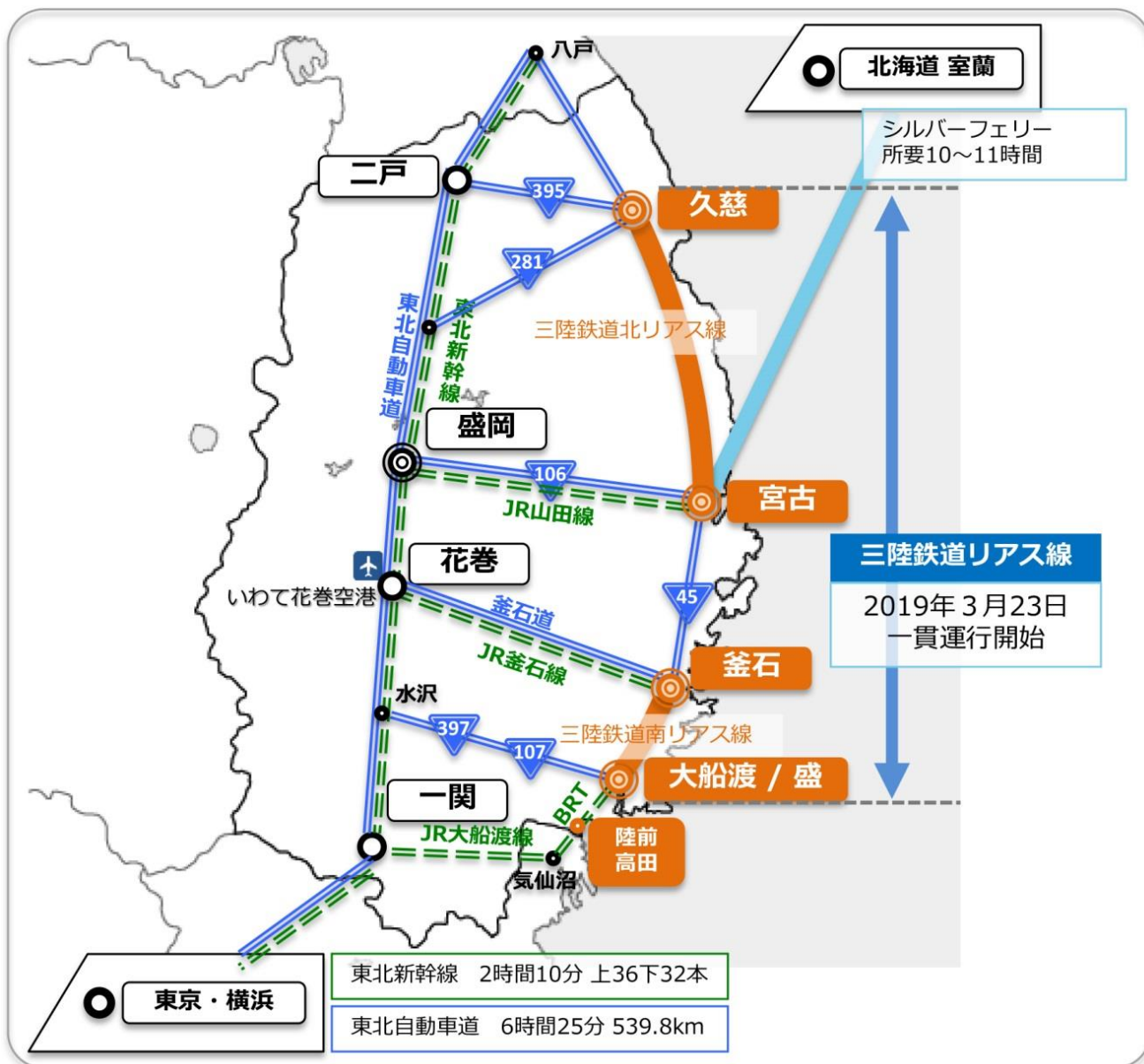
ウ 復興道路の開通

三陸を縦貫軸でつなぐ三陸沿岸道路（全線無料区間）や、三陸と内陸部を横断軸でつなぐ宮古盛岡横断道路、東北横断自動車道釜石秋田線といった復興道路^{※2}が着々と開通し、災害に強い道路が確保されるとともに、移動時間の大幅な短縮が見込まれます。

※1 第三セクター鉄道：国又は地方公共団体（第一セクター）が民間企業（第二セクター）と共同出資により設立した法人が運営する鉄道。

※2 復興道路：「岩手県東日本大震災津波復興計画復興実施計画（H23.8 岩手県策定）」で位置づけたもの。なお、国は縦貫軸を「復興道路」、横断軸を「復興支援道路」と呼称している。

[図1 沿岸地域への公共交通機関の整備状況]



○バス路線の運行状況（2018年8月末時点）

行き先	運行	盛岡発着	一関発着	二戸発着
久慈	県北	上下線各2本 / 約2時間30分		
	JR	上下線各5本 / 約3時間		上下線各7本 / 約1時間
宮古	県北	上下線各18本 / 約2時間30分		
釜石	県交	上下線各1本(大槌行き) / 約3時間		
大船渡	県交	上下線各4本 / 約3時間	上下線各3本 / 約2時間30分 (気仙沼・陸前高田経由)	
陸前高田	県交	上下線各1本 / 約4時間30分 (世田米乗換)	上下線各3本 / 約2時間 (気仙沼経由・大船渡行)	

※運行凡例・・・県北⇒岩手県北バス JR⇒JRバス東北 県交⇒岩手県交通

○鉄道路線の運行状況（2018 年 8 月末時点）

区間	路線	
久慈⇄八戸	JR八戸線	平 日：上下線各9本 / 約2時間 土休日：上下線各8本 / 約2時間
宮古⇄盛岡	JR山田線	毎 日：上下線各4本 / 約2時間
釜石⇄花巻	JR釜石線	毎 日：上線11本、下線10本 / 約1時間30分
盛(大船渡)⇄気仙沼	JR大船渡線(BRT)	毎 日：上線14本、下線15本 / 約1時間
陸前高田⇄気仙沼	JR大船渡線(BRT)	毎 日：上線14本、下線15本 / 約30分
気仙沼⇄一ノ関	JR大船渡線	毎 日：上線10本、下線11本 / 約1時間30分

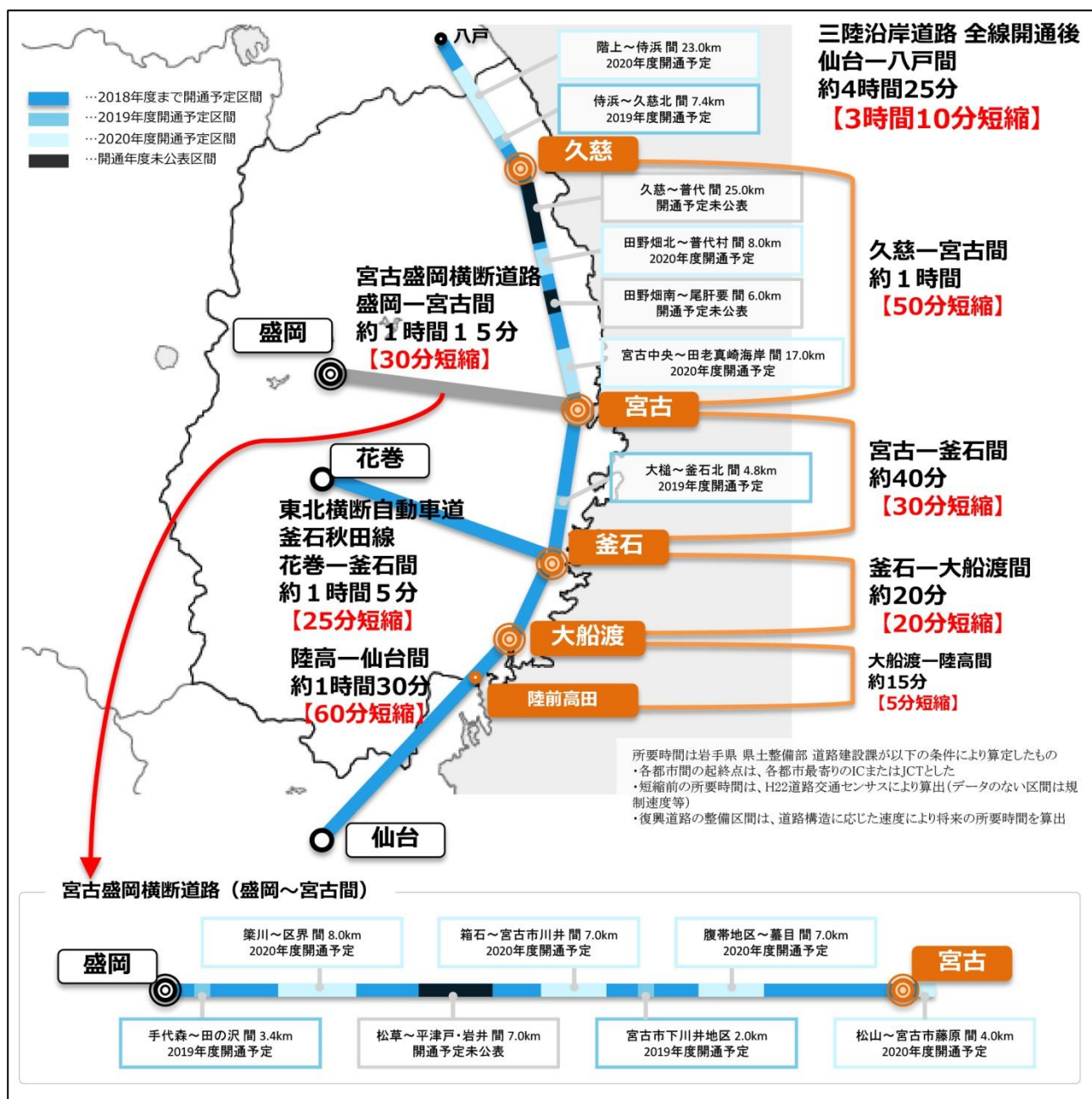
※気仙沼から陸前高田・大船渡へはBRTを利用

○フェリー航路の運航状況（2018 年 10 月 6 日時点）

- ・運行区間 北海道室蘭市 — 岩手県宮古市
- ・運行本数等 週 6 往復 所要 10～11 時間
 - 室蘭発 20:50 → 宮古着 翌 7:55（八戸経由：月～土運航）
 - 宮古発 9:25 → 室蘭着 19:25（火～日運航）
- ・運行会社 川崎近海汽船株式会社

[図2 復興道路の整備状況（完成後の移動時間短縮）]

復興道路の整備により、内陸地域から沿岸地域への移動時間や、沿岸地域の地域間の移動時間が短縮され、人的な交流、沿岸地域内で更なる周遊促進が期待されます。



③ 三陸地域へのアクセス情報の発信

ア 本プロジェクト事業が行われる市町村への交通アクセスについて、事業・市町村ごとに、公式ホームページ・SNS等各種広報媒体を活用しアクセス情報を提供し、来訪者への適切な情報提供に努めます。

イ また、復興道路の整備状況についてもきめ細かく情報発信することとし、開通した区間情報を提供しつつ、アクセス情報を更新していくこととします。

④ 本プロジェクト会期中の交通利便性を高める取組

関係機関と連携し、本プロジェクトの事業に合わせた列車の運行やＪＲ東日本及び三陸鉄道の相互乗り入れ等、交通利便性を高めるための対応を検討していきます。

⑤ 交通輸送対応の方向性

三陸防災復興プロジェクト 2019 の事業関係者（出演者、出展者など）並びに一般参加者の会場地への輸送については、道路及び交通の状況等に十分に配慮のうえ、利便性の向上を図るとともに、必要に応じて下記のとおり輸送計画を立てるなど円滑な交通手段の提供に努めます。

ア 事業関係者の輸送

事業実施会場地における事業関係者の輸送については、必要に応じて、関係機関・団体等の協力を得て実施します。

イ 一般参加者の輸送

一般参加者の輸送については、混雑が予想される場合、必要に応じて、関係機関・団体等の協力を得て、バス・鉄道等の利用による円滑な輸送に努めます。

ウ 一般参加者の交通制限

一般参加者の自家用車での事業実施会場への乗り入れについては、道路交通事情及び駐車場の設置状況に応じ、必要な制限を行います。

エ 車両等及び駐車場の確保

事業毎に周辺の駐車場情報の提供を適切に実施します。

事業関係者及び一般参加者の輸送に必要な車両等及び事業実施会場における駐車場については、関係機関・団体等の協力を得て、必要に応じてその確保に努めるとともに、事業実施会場の遠隔となる駐車場を設定する場合は、輸送について必要な措置を講じます。

オ 交通安全対策

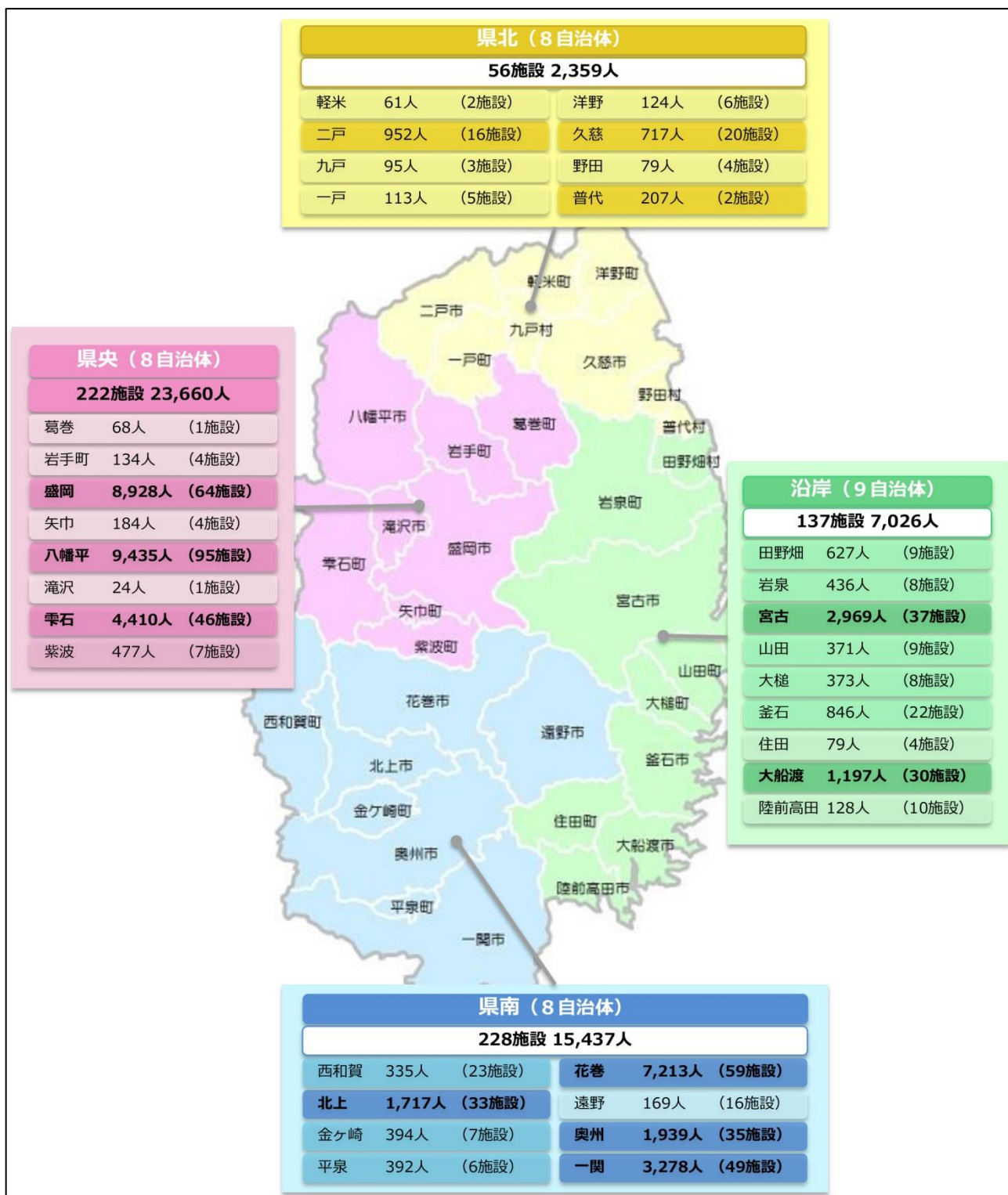
事業期間中における交通安全の確保と交通混雑の緩和を図るため、関係機関・団体等はもとより、広く県民に協力を求め、実情に応じて適切な対策を講じます。

(2) 宿泊への対応について

① 基本的な考え方

三陸防災復興プロジェクト 2019 では、円滑な事業運営と来場者の周遊・観光の両立を図るため、沿岸地域の宿泊施設数に配慮した配宿と岩手県内全域を含めた宿泊施設の効果的な情報発信に努めます。

[図3 宿泊施設数及び収容人数の状況]



※旅館業法に基づく旅館業を営む許可施設（平成30年4月1日）を基に作成（簡易宿所、下宿、休止中の施設等を除く）

[参考：岩手県の宿泊施設情報について]

○国内向け：岩手県観光協会「岩手県観光ポータルサイト いわての旅」

<https://iwatetabi.jp/index.php>

○海外向け：日本政府観光局（JNTO）「Japan Hotel & Ryokan Search」

<https://www.jnto.go.jp/ja-search/eng/index.php>

② 宿泊対応の方向性

ア 事業関係者の宿泊

三陸防災復興プロジェクト 2019 の事業関係者（出演者、出展者など）の宿泊施設については、事業関係者の負担軽減と円滑な事業運営を図るため、各事業の人員計画を踏まえて、会場地市町村あるいは近隣市町村への宿泊を促すとともに、必要に応じて配宿計画を作成します。

イ 一般参加者の宿泊

一般参加者に対しては、公式ホームページ等を通じて、内陸部を含めた宿泊施設の情報を適切に提供します。

(3) 警備・安全対策の対応について

① 基本的な考え方

三陸防災復興プロジェクト 2019 では、各事業の関係者及び一般参加者の安全・安心を確保し、円滑な事業運営が行われるよう、必要に応じて警察、消防、医療等の関係機関・団体等と緊密に連携し、警備・安全対策に努めます。

また、甚大な被害を受けた東日本大震災津波を踏まえ、岩手県地域防災計画及び市町村地域防災計画に従い、地震・津波等の防災対策に万全を期します。

② 警備・安全対策の方向性

ア 雑踏事故の防止

人の滞留・混雑が予想される事業においては、個々の状況に応じて適切な表示・警戒及び誘導を行い、雑踏事故の防止に努めます。

イ 犯罪・事件等の防止

人の混雑が予想される事業においては、必要に応じて、入場者の管理や巡視活動により、不審者や不審物件に対し警戒を行うとともに、問題が発生した場合あるいは発生のおそれがある場合は、適切な初期対応を行います。

ウ 交通事故の防止

自動車による来場で混雑が予想される事業においては、関係車両の案内及び誘導を行い、交通事故防止に努めるとともに、必要に応じて通行適否の確認を行います。

エ 大規模災害・突発重大事案への対策

岩手県地域防災計画及び市町村地域防災計画を踏まえ、各事業の状況に応じ防災管理の徹底を期し、大規模災害及び突発重大事案の発生時における、避難誘導、救急・救助、被害の拡大防止、情報収集・伝達等に関する諸対策を講じます。

なお、各事業実施会場の事情により、必要に応じて避難計画を作成するものとします。

9 事業推進に係る主なスケジュール及び推進体制

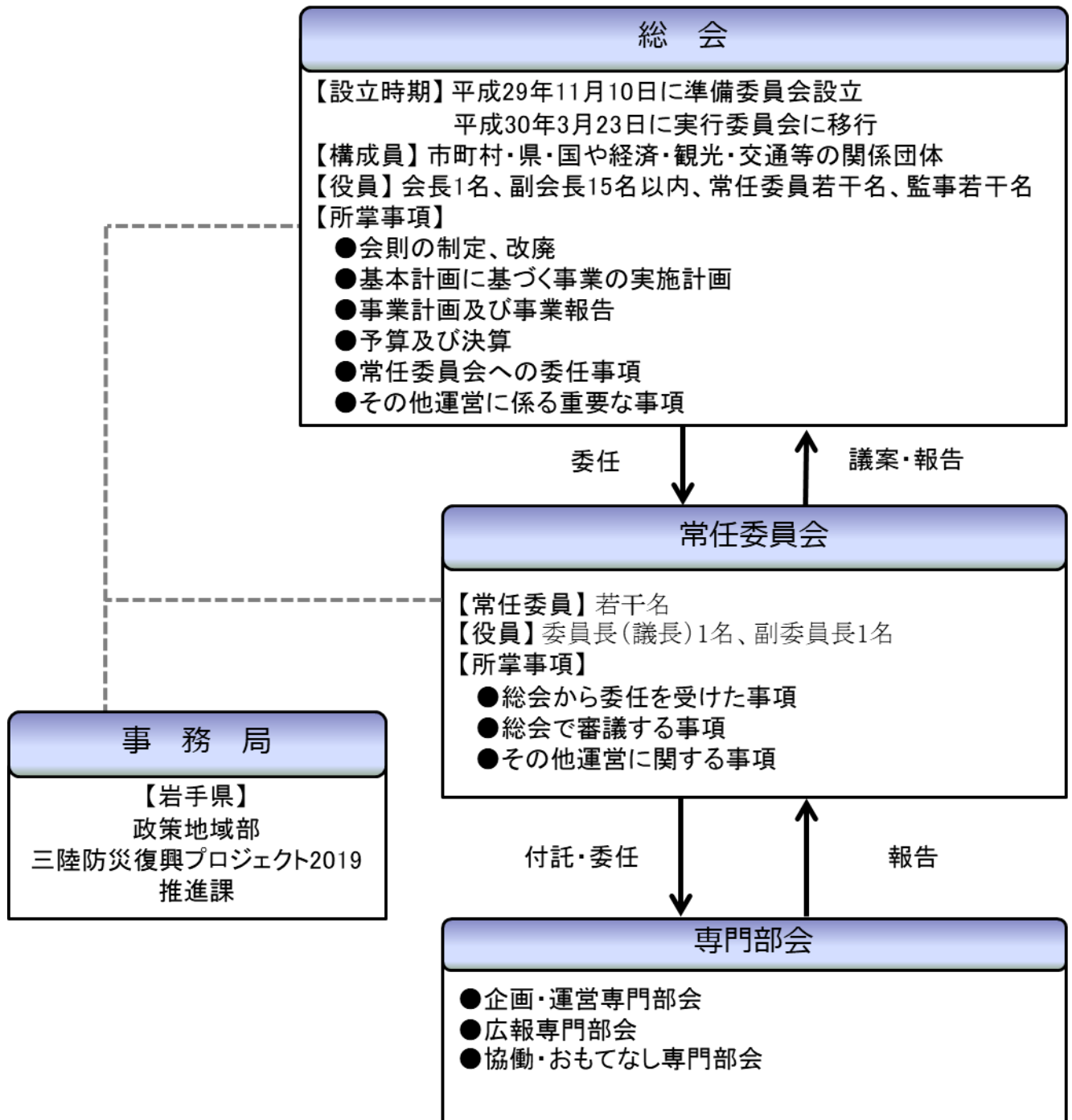
(1) 主なスケジュール

2017年11月10日	三陸防災復興博(仮称)準備委員会設立・第1回総会開催		
2018年3月23日	三陸防災復興博(仮称)準備委員会第2回総会開催		
	三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会第1回総会開催		
2018年4月	事業推進		
	1) イベント企画制作運営		
	2018年5月～9月	各事業実施計画等の検討・策定	
	2018年8月～9月	プレイベントの実施(県内／首都圏)	
	2018年10月～2019年5月	企画推進・関係機関調整・事業運営計画の策定	
	2) WEB企画制作運営		
	2018年6月～7月	WEB基盤整備・プレサイト公開	
	2018年9月～10月	本サイト公開	
	2018年10月～(順次)	コンテンツ拡充	
	2019年2月～	機運醸成に向けた情報発信の強化	
	2019年4月～	集客に向けた情報発信の強化	
	3) 広報宣伝		
	2018年5月～6月	各事業に係る広報実施計画策定	
	2018年7月～9月	プレイベントに係る広報宣伝	
	2018年7月～2019年5月	開催機運醸成及び集客促進活動	
	2019年5月	集客に向けた広報宣伝の強化	
	※ WEB企画制作運営及び広報宣伝は、連携して適時の情報発信を進める。		
2018年9月	プレイベント実施		
2019年6月1日	三陸防災復興プロジェクト2019開幕		
	中核となるイベント	6月1日	三陸防災復興プロジェクト2019 オープニングセレモニー
		6月1日～8月3日	三陸防災復興シンポジウム2019(想定回数 4回)
		(別途公表)	オールいわて・祭りイベント
		7月31日～8月4日 等	さんりく音楽祭2019
		8月7日	三陸防災復興プロジェクト2019 クロージングセレモニー
2019年8月7日	三陸防災復興プロジェクト2019閉幕		

(2) 推進体制

三陸防災復興プロジェクト2019 実行委員会は、全委員により構成され重要事項を協議決定する総会と、総会から委任された事項や総会での協議事項について検討を行う常任委員会のほか、専門事項を取り扱う専門部会によって構成します。なお、専門部会は、事業推進の必要に応じて、常任委員会が設置します。

■推進体制のイメージ



10 概算費用

本計画に掲載する取組実施に当たり必要となる想定概算費用額は次のとおりです。

なお、2018（平成 30）年度において事業の具体的調整を進めるとともに、県の予算事業の活用や国の支援制度の活用などにも努め、可能な限り経費節減を図っていきます。

概算費用額 約 4.6 億円

区分	概算費用(千万円)
①各事業企画制作運営費	38
②広報宣伝費	8
総計	46

① 個別事業実施経費 37.8 千万円

事業名称	概算費用（千万円）
三陸防災復興プロジェクト 2019 オープニングセレモニー	1.4
三陸防災復興シンポジウム 2019	2.0
オールいわて・祭りイベント	(別途公表)
さんりく音楽祭 2019	2.4
三陸防災復興プロジェクト 2019 クロージングセレモニー	1.4
LINK SANRIKU 情報ステーション	8.8
いわて HAMA-MESHI プロジェクト	1.3
三陸ステーションガーデンプロジェクト	1.8
「美味えがすと三陸-Gastronomy SANRIKU-構想」推進プロジェクト	3.9
ホタテモザイクアート「ありがとう貝画」	1.2
三陸ジオパーク ワクワクフェスタ	1.8
三陸ジオパーク フォトログイニング フェスティバル	1.0
三陸防災復興展示会	1.0
さんりく文化芸術祭 2019	1.2
三陸プレミアムランチ列車	0.4
三陸鉄道一貫運行記念「三陸縦断夜行列車」	0.4
さんりく絆スポーツフェスタ	1.5
三陸応援団 元気お届けキャラバン	1.5
“復興の今” 学習列車	0.8
三陸お土産品プロモーション大作戦	1.0
いわて三陸学びの旅	0.9
いわて三陸ドライブツーリズム	2.1

※ 各事業の費用については、事業内容の検討状況により変更が生じる可能性があります。

②広報宣伝費

7.8 千万円

■実施項目

WEB 動画の制作、ニュースサイトへの配信、テレビ及びラジオスポット、新聞広告、交通広告、ポスター・パンフレット等の PR ツール制作（多言語化含む）、各種イベントへの出展による PR 活動等

11 参考資料

三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会会則

(名称)

第1条 本会は、三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会と称する。

(目的)

第2条 本会は、三陸防災復興プロジェクト 2019 を開催するために必要な事業を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 三陸防災復興プロジェクト 2019 の企画、調整に関すること。
- (2) 三陸防災復興プロジェクト 2019 の準備、運営に関すること。
- (3) 三陸防災復興プロジェクト 2019 の機運醸成に関すること。
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(組織)

第4条 本会は、岩手県、県内市町村、関係団体等の役職員の中から、会長が委嘱する者（以下「委員」という。）をもって組織する。

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1 名
- (2) 副会長 15 名以内
- (3) 常任委員 若干名
- (4) 監事 若干名

(役員を選任)

第6条 会長は、岩手県知事をもって充てる。

- 2 副会長及び常任委員は、総会の同意を得て委員のうちから会長が委嘱する。
- 3 監事は、総会の同意を得て会長が委嘱する。

(役員職務)

第7条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長が定めた順序で、その職務を代理する。
- 3 常任委員は、常任委員会を構成し、本会の運営のために必要な事項を審議する。
- 4 監事は、本会の財務を監査する。

(任期)

第8条 委員及び役員（以下「委員等」という。）の任期は、委嘱されたときから本会の目的が達成されたときまでとする。ただし、委員等が就任時の機関及び団体の役職を離れたときは、その委員等が辞任したものとみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

- 2 会長は、前項の規定により、委員等の変更があった場合は、次の総会において報告する。

(顧問及び参与)

第9条 本会に顧問及び参与を置くことができる。

- 2 顧問及び参与は、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、会長の諮問に応じ助言する。
- 4 参与は、重要な事項に参与する。
- 5 前条の規定は、顧問及び参与について準用する。

(アドバイザー)

第10条 本会にアドバイザーを置くことができる。

- 2 アドバイザーは、会長が委嘱する。
- 3 アドバイザーは、会長の依頼に応じ、本会に助言し、協力する。
- 4 第8条第1項本文の規定は、アドバイザーについて準用する。

(総会)

第11条 総会は、会長及び委員をもって構成する。

- 2 総会は、必要に応じて会長が招集する。
- 3 総会の議長は、会長又は会長が指名した者がこれに当たる。
- 4 総会は、次に掲げる事項を所掌する。
 - (1) 基本計画に関すること。
 - (2) 会則の制定及び改廃に関すること。
 - (3) 本会の事業計画及び事業報告に関すること。
 - (4) 本会の予算及び決算に関すること。
 - (5) 常任委員会に委任する事項に関すること。
 - (6) その他本会の運営に係る重要な事項に関すること。
- 5 総会は、委員の過半数の出席がなければ開会し、議決することはできない。ただし、総会に出席できない委員は、あらかじめ通知された事項について、代理人に権限を委任し、又は書面で議決に加わることができる。
- 6 総会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(常任委員会)

第12条 常任委員会は、常任委員をもって構成する。

- 2 常任委員会に委員長及び副委員長を置き、会長が委嘱する。
- 3 常任委員会は、委員長が招集し、議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 5 常任委員会は、次に掲げる事項を所掌する。
 - (1) 総会から委任を受けた事項に関すること。
 - (2) 専門部会の設置並びに専門部会への付託事項及び委任事項に関すること。
 - (3) 総会で審議する事項に関すること。
 - (4) その他本会の運営に関すること。
- 6 常任委員会は、前項の規定により審議し、決定した内容を、次の総会に報告しなければならない。
- 7 前条第5項及び第6項の規定は、常任委員会について準用する。
- 8 常任委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(専門部会)

第13条 専門部会は、会長が委嘱した専門委員をもって構成する。

2 専門部会は、常任委員会から付託された専門的事項について、調査、審議し、その結果を常任委員会に報告しなければならない。

3 専門部会は、常任委員会から委任された専門的事項について、審議、決定し、その結果を必要に応じて常任委員会に報告しなければならない。

4 第8条第1項の規定は、専門委員について準用する。

5 専門部会の組織及び運営に関し必要な事項は、常任委員会に諮り、会長が別に定める。

(会長の専決処分)

第14条 会長は、総会及び常任委員会（以下「総会等」という。）を招集するいとまがないと認めるとき、又は総会等の権限に属する事項で軽易なものについては、これを専決処分することができる。

2 会長は、前項の規定に基づき専決処分したときは、これを次の総会等に報告し、その承認を得なければならない。

(事務局)

第15条 本会の事務を処理するため、事務局を岩手県政策地域部三陸防災復興プロジェクト2019推進課に置く。

2 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(会計)

第16条 本会の経費は、負担金及びその他の収入をもって充てる。

(事業計画及び予算)

第17条 本会の事業計画及び収支予算は、総会の議決を経なければならない。

(事業報告及び決算)

第18条 本会の事業報告及び収支決算は、監事の監査を経て、総会に報告しなければならない。

(会計年度)

第19条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 本会の会計に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(補則)

第20条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この会則は、平成29年11月10日から施行する。

附 則

1 この会則は平成30年3月23日から施行する。

2 この会則の施行の際、現に三陸防災復興博(仮称)準備委員会の委員、役員、顧問、参与である者は、それぞれ三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会の委員、役員、顧問、参与に委嘱されたものとみなす。

附 則

この会則は、平成30年4月1日から施行する。

三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会構成員名簿

【会長及び委員】

(順不同、敬称略)

No	役職	区分	現職名	氏 名	備考
1	会長	岩手県	岩手県知事	達 増 拓 也	
2	委員	市町村	宮古市長	山 本 正 徳	副会長
3	委員		大船渡市長	戸 田 公 明	副会長
4	委員		久慈市長	遠 藤 譲 一	副会長
5	委員		陸前高田市長	戸 羽 太	副会長
6	委員		釜石市長	野 田 武 則	副会長
7	委員		住田町長	神 田 謙 一	副会長
8	委員		大槌町長	平 野 公 三	副会長
9	委員		山田町長	佐 藤 信 逸	副会長
10	委員		岩泉町長	中 居 健 一	副会長
11	委員		田野畑村長	石 原 弘	副会長
12	委員		普代村長	桎 屋 伸 夫	副会長
13	委員		野田村長	小 田 祐 士	副会長
14	委員		洋野町長	水 上 信 宏	副会長
15	委員		盛岡市長	谷 藤 裕 明	
16	委員		花巻市長	上 田 東 一	
17	委員		北上市長	高 橋 敏 彦	
18	委員		遠野市長	本 田 敏 秋	
19	委員		一関市長	勝 部 修	
20	委員		二戸市長	藤 原 淳	
21	委員		八幡平市長	田 村 正 彦	
22	委員		奥州市長	小 沢 昌 記	
23	委員		滝沢市長	主 濱 了	
24	委員		雫石町長	猿 子 恵 久	
25	委員		葛巻町長	鈴 木 重 男	
26	委員		岩手町長	佐々木 光 司	
27	委員		紫波町長	熊 谷 泉	
28	委員		矢巾町長	高 橋 昌 造	
29	委員		西和賀町長	細 井 洋 行	
30	委員		金ヶ崎町長	高 橋 由 一	
31	委員		平泉町長	青 木 幸 保	
32	委員		軽米町長	山 本 賢 一	
33	委員		九戸村長	五 枚 橋 久 夫	
34	委員		一戸町長	田 中 辰 也	
35	委員		岩手県市長会会長	谷 藤 裕 明	常任委員
36	委員		岩手県町村会会長	山 本 賢 一	常任委員
37	委員	市町村議会	岩手県市議会議長会会長	天 沼 久 純	
38	委員		岩手県町村議会議長会会長	武 田 平 八	

【委員】

(順不同、敬称略)

No	役職	区分	現職名	氏 名	備考
39	委員	さんりく基金	公益財団法人さんりく基金代表理事	保 和 衛	副会長
40	委員	経済団体等	岩手県商工会議所連合会会長	谷 村 邦 久	常任委員
41	委員		岩手県商工会連合会会長	高 橋 富 一	
42	委員		岩手県中小企業団体中央会会長	小 山 田 周 右	
43	委員		一般社団法人岩手県経営者協会会長	佐 藤 安 紀	
44	委員		一般社団法人岩手経済同友会代表幹事	高 橋 真 裕	
45	委員		岩手県農業協同組合中央会会長	久 保 憲 雄	
46	委員		岩手県森林組合連合会代表理事会長	中 崎 和 久	
47	委員		岩手県漁業協同組合連合会代表理事会長	大 井 誠 治	
48	委員		一般社団法人岩手県建設業協会会長	木 下 紘	
49	委員	観光	一般社団法人日本旅行業協会東北支部 岩手地区委員会委員長	堀 内 紀 孝	常任委員
50	委員		公益財団法人岩手県観光協会理事長	谷 村 邦 久	
51	委員		岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長	澤 田 克 司	
52	委員		一般社団法人岩手県旅行業協会会長	高 橋 幸 司	
53	委員		三陸プラチナ観光ルート創設協議会会長	松 田 修 一	
54	委員	交通・運輸	三陸鉄道株式会社代表取締役社長	中 村 一 郎	常任委員
55	委員		東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社長	石 田 亨	
56	委員		公益社団法人岩手県バス協会会長	伊 壺 時 雄	
57	委員		IGRいわて銀河鉄道株式会社代表取締役社長	浅 沼 康 揮	
58	委員	国	復興庁岩手復興局長	内 田 幸 雄	
59	委員		国土交通省東北地方整備局長	高 田 昌 行	
60	委員		国土交通省東北運輸局長	吉 田 耕 一 郎	
61	委員	沿岸広域団体	岩手三陸連携会議議長	戸 田 公 明	常任委員
62	委員		三陸沿岸都市会議議長	戸 羽 太	
63	委員	大学	国立大学法人岩手大学学長	岩 淵 明	
64	委員		岩手県立大学学長	鈴 木 厚 人	
65	委員	岩手県	岩手県副知事	千 葉 茂 樹	副会長
66	委員		岩手県政策地域部長	白 水 伸 英	常任委員
67	委員		岩手県盛岡広域振興局長	宮 野 孝 志	常任委員
68	委員		岩手県県南広域振興局長	細 川 倫 史	常任委員
69	委員		岩手県沿岸広域振興局長	石 川 義 晃	常任委員
70	委員		岩手県県北広域振興局長	南 敏 幸	常任委員

【監事】

No	役職	区分	現職名	氏 名	備考
1	監事	経済団体等	株式会社東北銀行取締役頭取	村 上 尚 登	
2	監事		岩手県信用金庫協会会長	佐 藤 利 久	

【顧問】

(順不同、敬称略)

No	役職	区分	現職名	氏 名	備考
1	顧問	県議会議員	岩手県議会県北・沿岸復興議員連盟 会長	中 平 均	
2	顧問		岩手県議会議員	伊 藤 勢 至	
3	顧問		岩手県議会議員	千 葉 伝	
4	顧問		岩手県議会議員	斉 藤 信	
5	顧問		岩手県議会議員	小 野 寺 好	
6	顧問		岩手県議会議員	柳 村 岩 見	
7	顧問		岩手県議会議員	田 村 誠	
8	顧問		岩手県議会議員	佐々木 順 一	
9	顧問		岩手県議会議員	樋 下 正 信	
10	顧問		岩手県議会議員	飯 澤 匡	
11	顧問		岩手県議会議員	工 藤 大 輔	
12	顧問		岩手県議会議員	工 藤 勝 子	
13	顧問		岩手県議会議員	関 根 敏 伸	
14	顧問		岩手県議会議員	五 日 市 王	
15	顧問		岩手県議会議員	工 藤 勝 博	
16	顧問		岩手県議会議員	高 橋 元	
17	顧問		岩手県議会議員	小 西 和 子	
18	顧問		岩手県議会議員	木 村 幸 弘	
19	顧問		岩手県議会議員	郷 右 近 浩	
20	顧問		岩手県議会議員	小 野 共	
21	顧問		岩手県議会議員	中 平 均	
22	顧問		岩手県議会議員	高 橋 但 馬	
23	顧問		岩手県議会議員	吉 田 敬 子	
24	顧問		岩手県議会議員	岩 崎 友 一	
25	顧問		岩手県議会議員	高 橋 孝 眞	
26	顧問		岩手県議会議員	佐々木 茂 光	
27	顧問		岩手県議会議員	福 井 せ い じ	
28	顧問		岩手県議会議員	高 田 一 郎	
29	顧問		岩手県議会議員	城 内 よ し ひ こ	
30	顧問		岩手県議会議員	軽 石 義 則	
31	顧問		岩手県議会議員	神 崎 浩 之	
32	顧問		岩手県議会議員	佐々木 努	
33	顧問		岩手県議会議員	名 須 川 晋	
34	顧問		岩手県議会議員	佐々木 朋 和	
35	顧問		岩手県議会議員	千 田 美 津 子	
36	顧問		岩手県議会議員	千 葉 進	
37	顧問		岩手県議会議員	工 藤 誠	
38	顧問		岩手県議会議員	田 村 勝 則	

【顧問】

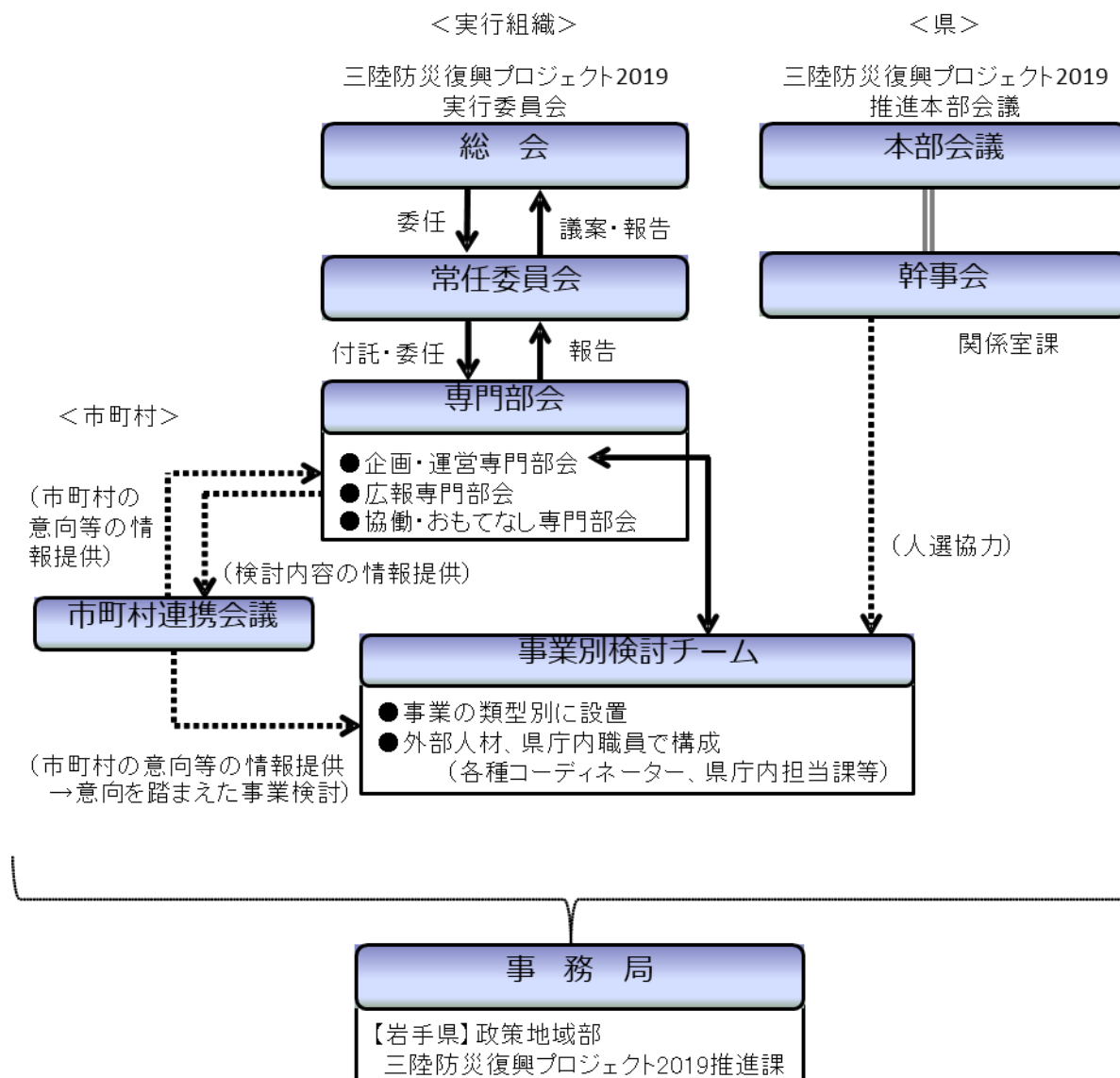
(順不同、敬称略)

No	役職	区分	現職名	氏 名	備考
39	顧問	県議会議員	岩手県議会議員	川 村 伸 浩	
40	顧問		岩手県議会議員	佐 藤 ケ イ 子	
41	顧問		岩手県議会議員	阿 部 盛 重	
42	顧問		岩手県議会議員	柳 村 一	
43	顧問		岩手県議会議員	臼 澤 勉	
44	顧問		岩手県議会議員	ハクセル 美穂子	
45	顧問		岩手県議会議員	菅 野 ひろのり	
46	顧問		岩手県議会議員	千 葉 絢 子	
47	顧問		岩手県議会議員	佐 ャ 木 宣 和	

【参与】

No	役職	区分	現職名	氏 名	備考
1	参与	報道	株式会社岩手日報社代表取締役社長	東 根 千 万 億	
2	参与		株式会社朝日新聞社盛岡総局長	高 橋 万 見 子	
3	参与		株式会社毎日新聞社盛岡支局長	滝 沢 修	
4	参与		読売新聞東京本社盛岡支局長	渡 辺 理 雄	
5	参与		株式会社河北新報社盛岡総局長	矢 野 奨	
6	参与		株式会社産業経済新聞社盛岡支局長	石 田 征 広	
7	参与		株式会社日本経済新聞社盛岡支局長	富 田 龍 一	
8	参与		株式会社岩手日日新聞社代表取締役社長	山 岸 学	
9	参与		株式会社デーリー東北新聞社盛岡支局長	田 村 祐 子	
10	参与		一般社団法人共同通信社盛岡支局長	半 沢 隆 実	
11	参与		株式会社時事通信社盛岡支局長	須 貝 孝 弘	
12	参与		株式会社盛岡タイムス社代表取締役社長	宮 野 裕 子	
13	参与		日本放送協会盛岡放送局長	大 久 保 嘉 二	
14	参与		株式会社IBC岩手放送代表取締役社長	鎌 田 英 樹	
15	参与		株式会社テレビ岩手代表取締役社長	榎 野 信 治	
16	参与		株式会社岩手めんこいテレビ代表取締役社長	藤 澤 利 憲	
17	参与		株式会社岩手朝日テレビ代表取締役社長	畠 山 大	
18	参与		株式会社エフエム岩手代表取締役社長	山 信 田 寧	
19	参与		株式会社東海新報社代表取締役社長	鈴 木 英 彦	
20	参与		合同会社釜石新聞社代表社員	菊 池 征 毅	

【事業検討に係る組織体制】



※1 企画・運営専門部会の検討を加速化させるため、専門部会の下に、県庁内関係者による「事業別検討チーム」を設置。

なお、当該チームは、庁内組織である「三陸防災復興プロジェクト2019 推進本部会議幹事会」と連携するもの。

※2 「市町村連携会議」を適宜開催しながら、プロジェクト実施に向けた市町村との連携の方向性等の検討を進め、基本計画に掲げる事業や、附帯事業の検討に反映させる。



三陸防災復興プロジェクト 2019

三陸の「三」を「羽」に見立て、新しい三陸の創造に向かって力強く羽ばたく三陸の姿を表現した。

色は、上から順に

- ・空色 清々しい未来を感じさせる明るい空
- ・青 美しく豊かな三陸の海
- ・赤 三陸の人々の活力と活気を表している。

三陸防災復興プロジェクト 2019 運営計画 2018 年 12 月

三陸防災復興プロジェクト 2019 実行委員会
[事務局]

■2018 年 12 月 31 日まで

岩手県政策地域部三陸防災復興プロジェクト 2019 推進課

■2019 年 1 月 1 日以降

岩手県政策地域部三陸防災復興プロジェクト 2019 推進室

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 11 番 1 号

岩手県政策地域部三陸防災復興プロジェクト 2019 推進課

電話 : 019-629-6222 E-mail : ab0012@pref.iwate.jp

ホームページ : <https://sanriku2019.jp/>